階上生態学

ecology

階上町は自然も人も多様で楽しい。

2019階上町▶町勢要覧
HASHIKAMI TOWN

プロローグ

階上グラデーション

山の緑～里の青緑～海の青

階上の春から夏は、
山の緑、里の青緑、海の青と
グリーンとブルーを基調に
境界のあいまいなグラデーションになる。
やがて秋から冬になると、
山の銀鼠（ぎんねず）、里の黄緑（きみどり）、海の群青（ぐんじょう）と
三段の階層に分かれる。
その境界を移行帯（エコトーン）といい、
階上の人々の暮らす場としての
多様な生物が棲む里山・里川・里海がある。

目次――CONTENTS

【プロローグ】
階上グラデーション――2

【対談】
階上。
その小宇宙としての魅力――4
浜谷豊美階上町長×熊谷晶子八戸学院大学教授

【階上生態学】
山の音、里の話、海のささやき――7
①［山の生態学］花もジオも楽しめる階上岳……8
②［里の生態学］雪のように咲くそばの花……10
③［海の生態学］美しい海岸風景と海の暮らし……12

●――ズームアップ1――「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」の開設……14

【域学連携特集】
リエゾンの効能――15
①階上岳散策の効果（八戸学院大学）……16
②「階上早生」生誕100年（八戸工業大学）……18
③アブラメのブランド化（八戸水産高等学校）……19

●――ズームアップ2――健康五つ星を掲げ「健康宣言」……20

【階上の基層】
階上の歴史回廊をたどる――21
①歴史と文化財……22
②寺下観音……24
③階上の三傑……26

●――ズームアップ3――階上への移住・定住の現在……28
●――ズームアップ4――「サイクリングの町」の可能性……30

【第4次階上町総合振興計画】後期計画
ゆめ　みらい　心ときめく　ふるさとづくり――31

【第2次地区計画】
協働のまちづくりの現在――32

●――ズームアップ5――震災復興と防災の現在……35

【行政】
信頼される行政を目指して――36

【議会】
町民と共に考える町づくり――37

【インフォメーション】
階上町の概要――38

【マップ】
町内案内／交通アクセス――40

●――ズームアップ6――山・里・海の香りギフト……42

【資料編】
HASHIKAMI　TOWN　DATA――43

対談

階上。その小宇宙としての魅力

浜谷豊美（階上町長）×熊谷晶子（八戸学院大学健康医療学部教授）

浜谷豊美町長

老若男女、登りやすさが魅力の階上岳

浜谷――階上岳はほとんどが民有林ですが、以前は種差海岸階上岳県立自然公園で、平成25年（2013）に三陸復興国立公園に編入された経緯があり、自然が保護されてきた面があります。手が入っていなかった部分を、今の時代に合わせ登山道を整備し、環境省の支援の下、トイレや休憩所、そして展望デッキも整備しました。年齢や性別に関係なく登りやすいことが魅力です。私は年に4、5回登るでしょうか、何かイベントがあるときはできるだけ参加するようにしています。

熊谷――私は7年前に神奈川県川崎市から八戸に来ました。大学からすぐの所に豊かな自然があることが新鮮でした。これを健康増進活動に活用したらいいのではと思いまして、自分一人でも行っては歩いたりします。車で大開平まで行けるので、頂上まで少しきついですが、結構登っています。

浜谷――先生の専門分野は機能生物科学で、自然を活用した健康増進活動などが研究のテーマということですので、階上町は格好のフィールドですね。

熊谷――以前は実験室の中だけの研究でした。今の大学では、今までの知識を生かしてフィールドに出ていこうと思ったのです。

浜谷――学生さんと一緒に登ることもあると思うのですが、階上岳で好きなスポットはありますか。

熊谷――上に登って市街地の見晴らしも良いですが、途中、ずーっと木々の間を歩くのが好きです。登山道の傍からは清水が流れる音が聞こえるし、植生がだんだん変わっていくような所もありますし。

トレッキングやサイクリングに人気の階上海岸

浜谷――階上海岸は、みちのく潮風トレイルに指定され、トレッカーもずいぶん増えました。また、階上海成段丘はジオサイトに認定されています。階上海岸の印象はいかがでしょうか。

熊谷――海というと私には湘南のイメージがありますが、それに比べて、岩場あり砂浜あり、緑地帯や松林もありと変化に富んでいます。ですから、歩いていると、あっという間に1、2時間くらい経ってしまいます。海のイメージががらっと変わりました。

浜谷――八戸より北方に行くと、砂浜がむつの方まで続いています。変化に富むのは種差以南ですね。地形が変化に富むということは植生も魚介類も違ってくるので、階上としてはありがたい自然環境だと思っています。

熊谷――種差では海浜に珍しい高山植物があるこ

とで有名ですけれども、こちらの岩礁地帯にもきれいな花々が咲いていますね。

浜谷――小舟渡（こみなと）のいちご煮祭りの会場にもなる廿一平（にじゅういちだい）あたりの芝生も種差海岸と同じような芝だといわれ、植生は似ています。

町には、まちあるきと称してガイドが案内するコースが2つあり、現在、浜の暮らし体験ということで、浜の文化と暮らしを巡る3つ目のコースを企画中です。（＊平成31年4月1日から3つ目のコースの提供を開始）

熊谷――私のゼミでは、種差海岸で海岸浴効果という研究をしていますので、ガイドの方に研究の成果を知ってもらって、海岸浴の効果について紹介してもらえたら面白いかもしれません。

浜谷――「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」が平成30年（2018）5月にオープンしました。今まで階上海岸の観光客は年間2万人前後でしたけれども、オープン以降、まだデータはまとまっていませんが、かなり増えているのではないかと思います（＊令和元年6月1日に来場者数が30万人を突破）。観光面でも、トレイルのウォーキングの方、サイクリングの方がだいぶ増えて、ハマの駅で休憩する姿が見受けられるようになりました。また、インフォメーションセンターの役目もあり、トイレもある。バックパッカーが増えているほか、レストランや産直コーナーでは階上の旬の魚を提供しているので、それを求める人たちも来ます。

熊谷晶子
八戸学院大学教授

階上早生そばの白い花がきれいな里山風景

浜谷――階上では、里も魅力的です。巨木があり、白いそば畑の花が非常に美しい。まさしく農村が日本の里山景観だと思いますが、グリーンツーリズムでも高校生を中心に毎年50人前後来ています。熊谷先生のゼミでは、そばの栄養素や効能についての教室を開催したり、地元特産物の魅力をさらに知るため、フィールドワークの一環で農家民泊をしたとお聞きしています。

熊谷――これまで栄養面でそばが取り上げられたことはあまりなかったと思うのですが、生活習慣病が問題視されるようになった今、そばに含まれるルチンに抗酸化作用があり、ビタミンが多い食材だと大きく取り上げられるようになりました。私は階上の道の駅にはよく行くので、そこで階上早生（わせ）そばを食べたりしています。

浜谷――平成30年（2018）は階上早生そば誕生100周年です。町村名がそばの品種についたのは全国的にほかにはないようです。また青森県内で奨励品種になっているのは階上早生のみです。それを重く受け止めて、これを階上の地でしっかりと栽培し品種を守っていくことを心がけてやっています。100年も続く品種というのは珍しく、途中で新しい品種に切り替わっていくことが多いのですが、県外のそば屋さんでも長い間使われていたりと評価をいただいているので、これを大事にしていく。また、先ほどの話にもあったように、今の時代、健康に良いそばの成分を理解してもらい、日々の食事に取り入れる。このような取り組みやイベントを通して、さらに関心や誇りを持ってもらえるよう積極的に働きかけを行っているところです。

八戸学院大学との域学連携と健康宣言

浜谷――町では八戸学院大学と連携し、数々の事業を行ってきました。先生のゼミでは生活習慣病や運動器症候群の予防、心の健康づくり運動の提案として、平成24年（2012）から種差海岸での科学的検証を進めてきたということでしたが、平成27年（2015）10月3日から自然を使った健康増進活動として階上岳散策の効果を調べるフィールドワークをされており、その一環として去年と今年のはしかみ臥牛山まつりで健

対談

階上。その小宇宙としての魅力

康ウォーキングをされたとお聞きしています。

先生が海岸浴とおっしゃっている海岸沿いを歩いた健康効果と、山の緑の中を散策する森林浴で得られる効果とに違いはあるでしょうか。

熊谷――同じ測り方、同じ観点で海岸と森林の両方の効果を見ると、それほど違いはありません。ただし、階上岳は登る運動負荷がかかってくるところが海岸と違うところです。ここには海も山もありますから、年齢やご自身の体調に合わせて楽しく歩けるコースを見つけて歩いてください、という提案をしています。

浜谷――町では平成29年（2017）2月に健康宣言をし、「8000歩ちょっとそこまでゴーゴゴー」運動という取り組みをしています。ゴーゴゴーとリズムある言葉でみんなに一気に広め、楽しんで歩いてもらおうと。それを実行する町民が増えてきたので、今後は少し負荷を考慮し、健康に有効な運動量になるウォーキングの仕方を教えることも大事かなと思っています。

熊谷――とにかく歩くことを習慣化してもらいたい。町長さんは、普段歩いていらっしゃいますか。

浜谷――時間がない中ですが、毎朝歩いています。私の家は海に近い方なので、家を出て駅前方面をぐるりと、休みの日は海岸沿いをずっと歩いたりします。

熊谷――歩いている人に測ったデータをお渡しして、気持ち良かっただけではなく、血圧なら歩く前後でこれだけ下がるということを実感してもらいたいですね。

浜谷――数値の見える化ですか。数値で効果が分かってくると人は頑張ることができる。簡易尿中塩分量測定器、活動量計、血圧計の3つを「健康づくり三種の神器」と称して健康状態を測定して見える化することを、健康宣言をする前から始めていまして、最初、健康福祉課長から我々にモニターの要請があったのです。これは良い機会だということで、私と副町長、教育長、以下健康に不安がある課長（これは冗談です）が選ばれてスタートし、1カ月間取り組みました。そのあと議員の皆さんにも呼びかけたら、ぜひにと全員が行いました。今は各町内会で健康教室として開催していたものをさらにバージョンアップして、正しいウォーキング方法を加えた内容を実施しているところです。

熊谷――数値といえば、平成30年（2018）4月18日の新聞を見ると、平成22年（2010）に階上町の女性の平均寿命が全国ワースト3位だったのが、前回からの女性の平均寿命伸び率が2・2歳で県内トップになった、女性はすごく改善されているという記事がありました。一方、男性は県内36位で、全国でも下位でした。

浜谷――男性は飲酒や喫煙の量が影響しているのかもしれません。禁煙は徹底してするように、今、「正しく知ろうみんなで進める三煙運動」に取り組んでいます。それと、これは長期的に見ないとなかなか改善しないと思うのですけれども、健康診断やがん検診を受けて自分の体をしっかり理解してもらう。特に男性陣には積極的に頑張ってもらおうと思っています。ほかには、濃い味付けの食生活を見直すため、かるしお（減塩）活動というのを実施していて、「はしかみ美味しい健康レシピ」を作成しました。

熊谷――八戸学院大学に来たら、学校の周りに豊かな自然があり、食材も良いものがあるのに、なぜ青森県が短命県1位なのか。それが端から見ると不思議でした。よそから来た者には、そこにいる方は逆にその良さに気付いていないように見えるのです。

階上は、生態学的にも自然景観上も多様な価値があります。その良さに気付くことがスタートになるのかなという思いで取り組んでいます。

浜谷――山・里・海。階上は、すべての生態系が揃った小宇宙とも言えます。それぞれの良さを融合させて、楽しみながら暮らして健康づくりをする。町民が自ら学び、気付き、効果的に行動を起こせるよう、大学の取り組みについて情報提供をお願いいたします。

今日は大変ありがとうございました。

（平成30年11月22日収録）

山の音、里の話、海のささやき

階上生態学

「生態学」（エコロジー）は、生物学の一分野であり、自然生態学のほか人類・社会・産業・景観・都市生態学等々、およそ地球上のすべてが対象となります。

また、生物地理学上の生態系で分類すれば、①陸上生態系（森林・牧草地・農地など）②内水生態系（湖・池などの静水域、川などの動水域）③海洋生態系（海）に分かれます。

この3つの生態系には画然とした線引きがあるのではなく、間には移行帯（エコトーン）と呼ばれる端境の場所があります。その代表格が里山・里川・里海で、多様な生命の宝庫であると同時に、町民の暮らす場所でもあります。

山の生態学

花もジオも楽しめる階上岳

階上岳は北上山地北端の残丘

階上岳（739・6m）は、美しい日本の尾根の一つ、北上山地北端に位置しています。サンゴなどの海洋生物の死骸が堆積してできた石灰岩が示すように、かつては海面下に没入していた地層が隆起したもので、さらには火山活動で噴出したマグマが冷え固まってできた花崗閃緑岩が全山を厚く覆っています。この古層が風化・浸食され、ゆるやかに波打つ隆起準平原となりました。階上岳はその中で浸食から取り残された残丘（モナドノック）といえるでしょう。

しかしながら分解は進み、地表が丸い形となったために、牛が寝そべっているような山容として、別名「臥牛山」とも呼ばれるようになりました。その他、古くは「鳥屋部岳」や隣接する岩手県洋野町（旧種市町）側からは「種市岳」とも呼称されていました。

漁師からは海上安全の目印として尊崇され、また、頂上には階上岳大明神が祀られており、代々、山伏の霊場（霞）として篤い信仰の対象でした。その本宮は妙野村（現八戸市大字妙）にあり、例祭のある旧暦の5月19日には白装束に身を固めた信者たちが、「サイギ、サイギ（懺悔、懺悔）」と唱えながら山を登り始め、神前の広場ではひれ伏しながら、祭文を唱える儀式がありました。

階上岳8合目の大開平には、階上が生んだアララギ派歌人・木村靄村（忠蔵）の歌碑「乳呑ます牛のまなこにふるさとの山はさかさまに映りてゐにけり」があり、以前から牧畜を主とした雄大な生活の場であったことも知られます。

里から見た階上岳山容。牛が寝そべる形として臥牛山の愛称がある

花崗閃緑岩が露頭した山頂と新設された展望デッキ

時代によって変わる山の楽しみ方

山の楽しみ方もかつては登山以外では春の山菜や秋の茸・山ぶどう・木の実採りなど、普段の食卓に彩りを添える実益を兼ねた行楽でした。その後、昭和36年（1961）から39年（1964）にかけて登山道を拡張整備しトイレや休憩所を設置するなど、階上岳の観光開発が本格化されていきます。昭和38年（1963）に鳥屋部登山口から石ノ倉を結ぶ階上岳スカイラインが開通すると、バスやマイカーでの観光客が増加しました。

また、階上岳は植物の種類も豊富で約400種近くが自生しています。中でも6月上旬に大開平から頂上までの登山道を埋めつくす〝つつじの回廊〟は圧巻で、

山頂にある龍神水

その頃に開催される「はしかみ臥牛山まつり」のイベントは毎年、多くの人々で賑わいます。ほかに階上岳をホームグラウンドにするウォーキングの会・はしかみYYクラブ主催の「階上岳横断ウォーク」も毎年10月に開催されています。

三陸復興国立公園指定後の新展開

昭和49年（1974）10月3日、階上岳は階上海岸も含めて種差海岸階上岳県立自然公園に指定され、1回目の画期を迎えましたが、さらに大きな画期となったのは平成23年（2011）の東日本大震災による復興プロジェクトとして、25年（2013）5月24日に「三陸復興国立公園」に編入されたことです。併せて同年11月には、太平洋沿岸の八戸市蕪島（かぶしま）から福島県相馬市までの国内最長の長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」の構想ができ、知名度は一気に高まりました。階上岳の観光客入込数で見れば、昭和40年代は年間10万人程度で推移していたものが、大震災の平成23年（2011）には3万2715人に落ち込みましたが、25年（2013）では18万629人を数えています。

新しいムーブメントとして、ジオパークがあります。これは地球の歴史が育んだ大地の遺産をテーマにした自然の公園で、平成25年（2013）9月に八戸市から宮城県気仙沼市までの南北約220km、東西約80kmに及ぶ「三陸ジオパーク」が日本ジオパークとして認定されました。

ジオパークは、そのジオパークの見どころとなる場所である「ジオサイト」で構成されており、階上町においては、階上岳、寺下観音灯明堂、寺下の滝、階上海成段丘が三陸ジオパークのジオサイトに指定されています。

施設としては平成10年（1998）鳥屋部登山口にオープンして以来、行楽客や登山者、町民の総合拠点として親しまれているフォレストピア階上があります。また、平成27年（2015）には大開平に通年24時間開放の休憩所が、30年にはしるし平トイレ（バイオ）と8合目・頂上に展望デッキが新設されました。

新設された展望デッキとつつじ群生地（大開平）

はしかみ臥牛山まつり

登山客で賑わうフォレストピア階上

観光ガイド養成講座で道路開削現場の花崗閃緑岩を見る

里の生態学

雪のように咲くそばの花

里山・里川を形成する地形

隆起準平原となった階上町は、3回以上海面下に沈んでできた海成段丘地形といわれますが、同じ里でも山麓地形区と、北東方へ傾斜しながら下降していった蒼前平地形区では、その様相が異なっています。

かつて山麓では農林業と畜産業が主でしたが、蒼前平ではなだらかな地形とヤマセの涼しい気候が馬の放牧に適しており、江戸時代宝暦頃には蟹沢・野沢・松館（現八戸市）を含めた広い範囲に「妙野牧」という馬牧がありました。そもそも「蒼前」には、馬の守護神の「蒼前様」の意味があります。そして現在は主に住宅地や郊外型商業地になっています。

階上町は水源となる階上岳を擁しながらも、山腹は土壌の関係で河川が浸食する開析があまり進まず、水量が少ない空谷が目立っています。また、平坦部でも細い小川が見受けられる程度です。江戸時代の八戸藩士・蛇口伴蔵が、寺下川・大渡川を水源に蒼前平を開発する水利事業に着手したのも、昭和51年（1976）から平成16年（2004）にかけて国営八戸平原総合農地開発事業が行われたのも、そういった水事情がありました。

ただし、中山間地帯にある典型的な山里の金山沢では、割合に河川水が豊富です。ふるさと河川公園を流れる松館川には、かつて地誌学上も貴重な石灰洞の「蛇抜け穴」がありました。

里山の畑地。林に挟まれた白い部分はそば畑

ふるさと河川公園を流れる松館川。
ここにはかつて、地誌学上も貴重な石灰洞の「蛇抜け穴」があった

「階上早生階上そば」のブランド化

里地の基幹産業の農業は、戸数の減少、就業者の高齢化、後継者不足といった構造的な問題から脱却できずにいますが、平成30年（2018）に町内の若手就農者による「階上町青年就農ネットワーク」が設立され、明るい話題となりました。

また、農業振興の活路として、平成18年（2006）に階上そば振興委員会を設立。「階上早生階上そば」の復活とブランド化を目指し、20年（2008）2月には商標を登録、24年（2012）には旧登切小学校を改修した振興拠点の

わっせ交流センターの新そば祭り

「わっせ交流センター」がオープンするなど、着々と6次産業化を進め、30年（2018）には「階上早生」生誕100年を迎えています。

「階上早生」に関しては、鳥屋部登山口の「フォレストピア階上」や、国道45号沿いの郊外型商業地にある「道の駅はしかみ」でも販売宣伝しており、道の駅の一画にあるふるさとにぎわい広場では町内の食品加工グループが、そば以外にもそば粉使用の手作り菓子の販売をしています。

里地を楽しむ様々な活動

階上町では、平成17年（2005）に「はしかみグリーン・ツーリズム協議会」が発足し、毎年、首都圏や関西方面の中高生を受け入れています。受け入れ農家は、会長の土橋美智子さん（とまりや「けやき」）と会員の鳩恵子さん（はと）、松倉チエさん（わの家）の3軒で、4月から1月までの10カ月間、季節に合わせた農業体験と土地の料理を提供しています。

平成30年（2018）10月には神奈川県立座間高等学校生徒が訪れ、3軒それぞれに工夫を凝らしたメニューを楽しみました。松倉チエさんの「わの家」では、女子生徒4名が稲刈りを体験。ほかにも「ばほりもち」作りをしました。「ばほり」とは昔、農作業の時に被った半月形の編み笠のことで、その形を模した小麦粉の餅に黒砂糖・くるみ・味噌を混ぜた餡が入っている伝統の郷土菓子です。

また、町内には20本以上の巨木があり、中でも国内最大級が6本、青森県内最大級が9本、県と町指定天然記念物が5本あり、平成22年（2010）に発足した「階上売り込み隊」は、活動の一つとしてこの「巨木めぐり」のガイドをしています。

階上町域全長約33㎞の「みちのく潮風トレイル」では、階上海岸と階上岳をつなぐ里地のルートも重要です。町では平成26年（2014）に「はしかみおもてなし連絡会」を設立し、ルート上とその近辺に「ガイド」「宿泊・体験」「お立寄り」と3タイプの〝おもてなしエンジェル〟を募りました。現在は28の団体・個人が登録されています。

そのうちの一人、赤保内の成田北士（ほくし）さんは「お立寄り」として休憩所やトイレの利用のほか、自宅前の庭に60坪のラベンダー畑を作り、夏場には無料のラベンダー摘み体験や、ラベンダースティック作り教室も開催しています。

国道45号沿いにある道の駅はしかみ

農家民泊で稲刈り体験後、「わの家」の松倉チエさん（左端）と一緒に記念撮影に収まる座間の生徒たち

階上売り込み隊による「階上町秋の巨木めぐり」で、銀杏木窪の大銀杏を観察する参加者

ラベンダースティックを手にするおもてなしエンジェルの成田北士さん

海の生態学

美しい海岸風景と海の暮らし

岩石海岸と海岸の植物

階上町では、世界的にも珍しい何段にも連なる海成段丘で形成されています。これは波に浸食されてできた海食崖と、その下の平らになった大地が隆起と浸食を繰り返してできたもので、里地の農林業を支える大地もまた、この海の歴史から生まれたともいえます。

階上海岸には平らな海食台があり、北の一部が砂浜や円礫（海浜石）に覆われているほか、ほとんどが岩礁の多い岩石海岸になっています。ここには北上山地の植物区系に含まれる多様な海浜植物、塩生植物が自生していますが、特に景観を代表するものにハマナス、ニッコウキスゲ、スカシユリ、ハマギクがあります。

また、南から順に小舟渡・道仏・榊・追越・大蛇漁港があり、漁港に対面するように立地した浜の魚屋さんと共に、海の生活・作業景観を形成しています。

岩礁の多い岩石海岸と海成段丘を背景に、
「はしかみの天使に出会えるトレイルウォーク」で階上海岸を歩く

県内最短の汀線と津波記念碑

階上海岸の汀線は、総延長約5・5kmと海に面した青森県内22市町村の中で最も短く、その中に多様な地形・地質・植物・景観が凝縮しており、第一級の海岸景勝地になっています。また、「階上海成段丘」は、三陸ジオパークのジオサイトに指定されています。

階上海岸には津波記念碑が4基あり、それぞれ明治29年（1896）6月15日の「海嘯死亡者之碑」（小舟渡海岸赤石大明神敷地内）、昭和8年（1933）3月3日の「地震海鳴りほら津波」（榊海岸）、同じく「海嘯記念碑」（大蛇海岸大蛇小学校校門脇）、平成23年（2011）3月11日の「忘れるな　あなたを守る地域の絆」（大蛇小学校敷地内）の文字が刻まれています。これら記念碑は「みちのく潮風トレイル」のルート上にあり、時折、観光客やトレッカーの立ち寄る姿が見られます。また、小学校児童の景観学習教室の教材にもなっています。

多様な姿を見せる階上海岸だけあって、その楽しみ方にもいろいろあります。最

青森県最東南端の
階上灯台と
スカシユリなどの
海浜植物

小舟渡海岸の赤石大明神敷地内にある
明治29年の「海嘯死亡者之碑」

も一般的な散策では、階上売り込み隊がガイドする「階上海岸散策ウォーク」がありますし、限られた場所ですが、遠浅の岩礁地帯では磯遊びも可能です。

また、「まちあるき」として①線路くるりん海の幸つまみ食いコース（約2・5㎞／90分）と、②海も鳴る心も高鳴る県境ひとまたぎコース（約3・5㎞／3時間）、③ハマを満喫！歩（ある）でぃ～ばコース（約3㎞／90分）の3コースが設定され、それぞれテーマに合った海の恵みが堪能できます。

「はしかみいちご煮祭り」の賑わい

まちあるきの「線路くるりん海の幸つまみ食いコース」で、浜の魚屋さんに立ち寄り試食する参加者

漁業の将来を見つめて

階上町で営まれている漁業は、そのほとんどが沿岸漁業といわれる漁業で、はえ縄・刺網・かご・磯漁業のほか、小型定置網・いか釣り漁業などの種類があります。現在、これら漁業を取り巻く環境は、全国的な例に漏れず、厳しい状況下に置かれています。水産資源の減少、燃油や漁業用資材の価格上昇、老朽化した漁船や設備の更新、そして、これらを要因とする漁業所得の減少。また、漁業者の高齢化や後継者不足もあり、当町の漁業の低迷が心配されています。

そこで、階上町では、こういった諸問題を中長期的な視野で解決するべく、様々な水産振興策を講じています。

平成30年（2018）5月19日にオープンした「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」は、今後の漁業全般の需要に応えようという施設です。

「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」の賑わい

小学校児童を対象として、海に対する理解と関心を深めてもらおうという活動に、階上町水産振興協議会が毎年開催する「海の学校」があります。また、地元漁業者が協力して「サケの刺網漁・定置網漁」の見学や体験も実施しています。さらに昔からの浜の風物詩・フノリ採り体験もしています。

漁業振興には「水産観光業」も大切な要素です。階上町では恒例の7月下旬の「はしかみいちご煮祭り」や、11月下旬の「階上どんこまつり」を開催し、毎年、多くの観光客で賑わいます。

サケの刺網漁体験後、サケの捌き方実演を見る児童

「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」の開設

“海業”復興のシンボル

平成23年（2011）3月11日の東日本大震災後、町では海業復興のため拠点となる「海業支援施設」の建設を計画。26年度には「浜の活力再生プラン」を策定し、地元の漁業関係者からなる階上産地協議会や観光関係者らと戦略研修会を開催するなどして協議を重ねてきました。

その後、三沢市・おいらせ町・八戸市と共に策定した「浜の活力再生広域プラン」の中に位置付けられ、近隣地域の水産振興を担うための拠点として、平成30年（2018）5月19日、「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」がオープンしました。場所は大蛇（おおじゃ）漁港近くで「みちのく潮風トレイル」のコース上に位置し、今後の漁業活性化のみならず、交流人口の拡大が期待されています。

浜のもの、なんでも“あるでば”

施設名の「あるでぃ～ば」は、「ありますよ」を意味する方言の「あるでば」が語源で、町民からの公募で決定。名前のとおり1階の産直コーナーには、地元で獲れる魚だけでなく、八戸市や三沢市、おいらせ町の海産物が並んでいます。

また、レストラン「Mar（マール）」では、太平洋を一望しながら旬の魚介類をあしらった料理を堪能できるほか、階上漁協女性部が運営する「あっぱぁかっちゃあ’ズ」では、人気のソフトクリームわかめ塩、ふのりドーナツ、ふのり入りだし巻たまごや軽食などを販売しています。

オープン以降、平日は約700人、週末は約2千人が訪れ、令和元年（2019）6月1日には約1年で来場者数が30万人を突破。前年まで年間の階上海岸観光客入込数が2万人で推移していたことから思えば、その効果は絶大でした。

今後は毎月食のイベントを開催するほか、2階にある水産PRコーナー・調理室・研修室を活用して、漁業の後継者確保や育成にも利用される予定です。

「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」外景。看板のロゴマークは八戸工業大学とのコラボで、階上岳と階上海岸を泳ぐ魚がデザインされている

太平洋が一望できる「レストランMar」

円形の観賞用大型水槽もある産直コーナー

階上漁協女性部が運営する「あっぱぁかっちゃあ’ズ」

域学連携特集

リエゾンの効能

国が地方創生の一環として、地方大学の振興に交付金を創設する事業を展開していますが、その中の条件の一つに「地域発展」への貢献があります。

また、高校についても日頃の課題研究や総合学習として、官学連携を実施する学校が増えてきました。

地方自治体では、学生が地域に関心を持ち、専門を生かした若者視点を持ち込むことで、健康増進や農林水産物のブランド化につながり、ひいては人材確保にも結び付くことを期待しています。

リエゾン（連携）の効能は、テーマをしっかり共有し、相互に信頼関係を築くことによって生まれます。

［八戸学院大学］階上岳散策の効果

町と八戸学院大学との連携概要

町では平成25年（２０１３）３月19日に八戸大学（現八戸学院大学）と連携協力に関する協定書を結び、健康レシピの作成やジェラートの開発、イベントの開発・運営などを実施してきましたが、平成27年（２０１５）３月26日には、八戸学院大学、八戸学院短期大学（現八戸学院大学短期大学部）と新たに連携協力に関する協定書を締結しました。連携の内容は次のとおりです。

＊健康づくりに係る事業（健康福祉課）
＊町ＰＲに係る事業（総合政策課）
＊はしかみ臥牛山まつり・はしかみいちご煮祭りに係る事業（産業振興課、商工会）
＊防犯・交通安全少年球技大会に係る事業（町民生活課）
＊地方創生総合戦略に係る事業（総合政策課）
＊民俗資料収集館台帳整備に係る事業（教育課）

これらの事業中、健康づくりに関する事業（健康福祉課）を具体的に紹介すれば、次のようになります。

①八戸学院大学人間健康学部（現健康医療学部）熊谷ゼミでは、平成24年（２０１２）７月から種差海岸の海岸浴の効果の科学的検証を進めてきました。その結果に基づき、平成27年（２０１５）からは階上町のモデル事業として町内運動サークルのメンバーも参加し、「自然を使った健康増進活動」（階上岳散策の効果）の調査を行いました。

②八戸学院地域連携研究センターと八戸学院短期大学（現八戸学院大学短期大学部）は、平成27年（２０１５）に階上町食生活改善推進員が作成した「はしかみ美味しい健康レシピ」に協力。また、

八戸学院短期大学（当時）との連携事業で、階上町の魅力発信へ写真撮影用額パネルを作製
（平成27年11月６日／八戸学院大学提供）

階上岳散策前の準備体操（大開平／八戸学院大学提供）

平成27年３月26日の八戸学院大学・八戸学院短期大学（当時）との連携協力協定締結の調印式

健康寿命延伸事業の「はしかみ健康フォーラム」にも参加しました。

③平成29年（２０１７）1月下旬には八戸学院大学の教員と学生が、階上町野場中行政区の健康づくり活動「スリム活動」にも参加し、3カ月に1回、筋肉量などのデータを測定して運動の成果を確認してきました。

①は今も継続中の取り組みですので、さらに詳細に紹介します。

階上岳散策の効果

［階上岳散策の活用目的］

厚生労働省は、国民の健康増進に関する基本的な方向や、数値目標を掲載した「健康日本21」を10年おきに出しています。平成26年（２０１４）2月20日に出された第2次では、健康で幸せに暮らせる社会を目指すために、心の健康・次世代の健康・高齢者の健康に具体的目標が掲げられており、熊谷ゼミでは「壮年期死亡の減少」「健康寿命の延伸」「生活の質（ＱＯＬ）の向上」を目的に、階上岳散策の活用を提案しました。

［調査日・被験者・調査方法］

調査日は、平成27年（２０１５）～29年（２０１７）の6月～10月の間で、階上岳で4回、場所を比較検証するため市街地（長根運動公園）で1回行いました。被験者は、地域住民男女35名（平均年齢約57・6歳）の中高年と、学生男女39名（同約19・8歳）を対象としました。

調査方法は、階上岳8合目の大開平から頂上まで標高差１１２mを往復約1時間かけてのウォーキング前後、自律神経活動の指標として「血圧・心拍数測定」を、精神的ストレスの指標として「唾液アミラーゼ活性測定」と「心理的ストレス反応測定尺度」の計3種類を、座位で測定しました。

［結果と今後の取り組み］

測定の結果、自律神経系の交感作用によって分泌され、ストレスに対して数分で鋭敏に反応する唾液アミラーゼ活性が中高年で増加し、身体的に負担が大きい傾向が見られたほかは、すべてがほぼ有意に低下しており、階上岳散策は年齢に関係なくストレス軽減効果があったと結論付けられました。また、先行して実施された種差海岸の海岸浴では、すべてが有意に下がっていたことから、年齢層によってウォーキングする最適な場所を選択することが望ましいことも分かりました。

今後も取り組みは継続され、階上岳の散策を常時行っている地域住民や、ウォーキングを習慣化させた場合の血圧低下効果及び効果の持続性等について調べることにしています。それによって、今後、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）や、メタボリックシンドローム（代謝症候群／生活習慣病）の予防につなげ、ひいてはより健康で豊かなライフスタイルそのものを全国的に発信していくことを目指しています。

ウォーキングする参加者（八戸学院大学提供）

山頂へ至る山道（八戸学院大学提供）

山頂に到着した参加者（八戸学院大学提供）

唾液アミラーゼを測定する参加者（八戸学院大学提供）

「八戸工業大学」「階上早生」生誕100年

町と八戸工業大学との連携概要

町では平成30年（2018）9月5日、八戸工業大学と「地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与する」ことを目的に、防災・減災、環境・エネルギー、産業振興・技術開発、教育・人材育成、文化・スポーツ・国際交流など多岐にわたる連携協定を締結しました。

ほかに同年5月19日にオープンした「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」のロゴマークの制作を依頼されていた同大学創生デザイン学科では、前年12月、学生が水産関係者にハマの魅力や施設への期待を聞き取り調査して完成させています。

階上早生生誕100年記念ポスターの制作

今や階上町の代名詞ともなった「階上早生（わせ）そば」は、大正7年（1918）に青森県内で唯一のそばの奨励品種に採用された在来種です。平成30年（2018）10月20日・21日には生誕100年記念のセレモニーが開催されました。

一時期はわずかに自家消費用として栽培される程度に衰微しましたが、近年は階上早生の復活とブランド化を目指して階上そば振興委員会設立、商品登録、そば拠点施設「わっせ交流センター」オープン、そば打ち講習会・段位認定大会の開催、関連商品の開発等々、着実に知名度を上げる試みがなされています。

生誕100年記念での八戸工業大学との連携では、創生デザイン学科と共同でポスターを制作しました。

最終案として決定したのは2種類で、そばの実の造形を漢字の「百」で表現したデザインでは、中心の上下に縦3本の線を入れ、三たて（挽きたて・打ちたて・茹でたて）の意味と階上岳を象徴したもの。黄色ベースのもう一つは、そばを愛する階上住民を中心に、町を代表するケヤキの葉やそばの花と実、打ちたてそばで構成されたデザインです。

「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」の店頭軒下に設置された日よけのれんには、親しみのある文字、伸びやかな線画で描かれた階上岳・階上海岸と泳ぐ魚のロゴマークがデザインされている

八戸工業大学との連携に関する協定締結の調印式（平成30年9月5日）

八戸工業大学
感性デザイン学部の
学生２人が制作した
「階上早生」生誕100年の
記念ポスター

階上早生生誕１００年記念セレモニー

「八戸水産高等学校」アブラメのブランド化

町と八戸水産高校との連携協定

町では平成30年（2018）7月24日、青森県立八戸水産高等学校とアブラメのブランド化を推進するため、官学連携の協定を締結しました。

標準和名「アイナメ」は、硬骨魚類・アイナメ科に属し、北海道南部から九州・朝鮮半島沿岸まで広く分布しており、青森県や関西圏などでアブラメと呼ばれる代表的な底着魚です。

釣魚として人気があり、釣り人には身近な魚ですが、大量に漁獲される魚種に比べて単価が高く、鮮度が落ちやすいことから、一般家庭向けとして流通するには難がありました。「町の魚」に制定している階上町でも、春から秋にかけて年間4t程度の水揚げで、スーパーなどの店頭に並ぶことは少ないのが実情です。

ブランド化へ向けた研究と今後

八戸水産高校では、平成28年度（2016）から海洋生産科3学年の課題研究授業で、アブラメをテーマに最適な保存方法などを研究してきました。

まずは青森県産業技術センター食品総合研究所と連携し、締め方による外観や旨み成分（イノシン酸）の違いについて分析。窒息死させたアブラメは各部位に血が滲んでいましたが、活締め、神経締めでは外観の違いはなく、旨み成分は24時間0℃保存した身に一番多く含まれていました。

八戸水産高校は、平成30年（2018）12月14日の第27回全国水産・海洋高校生発表会でこれらの研究を発表し、奨励賞を受賞しました。今後は、全科（海洋生産科・水産食品科・水産工学科）の各課題研究班が連携し、ブランド化実現を追求していくそうです。

また、ブランド化には安定供給が不可欠ですが、青森県栽培漁業振興協会では、卵から稚魚を育てる「種苗生産」に着手し、10万匹の量産を目指すこととしており、町はその一部を購入して放流事業を実施することとしています。

階上町「町の魚」に制定されているアブラメ

八戸水産高校との官学連携に関する協定締結の調印式（平成30年7月24日）

あぶらめ漬け丼がついた定食（レストランMar）

第27回全国水産・海洋高校生発表会で成果を発表する八戸水産高校の生徒

健康五つ星を掲げ「健康宣言」

不名誉な〝短命県青森〟

健康の基本は「食」と「運動」です。運動に関して、平成27年（2015）に青森県教育委員会が実施した「県民の健康・スポーツに関する意識調査」では、スポーツをする割合はすべての年代で増えたものの、「大いに健康だ」と答えた女性の割合が6・6％（男性は10・8％）で、20代女性は0％という状況でした。

これらの結果から、高齢者は健康を強く意識し、ウォーキングなどをする人が増えており、女性に関しては仕事や子育てに追われて運動の時間が取りにくいのだろうと分析されています。

また、青森県は平均寿命が男女とも全国最下位、がんによる75歳未満年齢調整死亡率も最下位を記録。〝短命県青森〟という不名誉な状況が続いています。

〝見える化〟で健康増進

階上町では健康診断（健診）の受診率が低く、女性の平均寿命が全国でも下位になったため、危機的状況を打開しようと平成26年（2014）から健康寿命延伸事業を展開。まずは中核事業として尿中塩分濃度計・活動量計・血圧計を「三種の神器」と名付け、運動と減塩を組み合わせた健康増進活動を数値で表す〝見える化〟を実践しました。同時に減塩（かるしお）活動でも食生活改善推進員会の協力を得て「はしかみ美味しい健康レシピ」19品を完成しています。

平成29年（2017）2月1日には健康フォーラムを開催し、町民参加のもと大々的に「健康宣言」を実施しました。ここでは今後3年間の行動目標を「健康五つ星」として掲げましたが、そのうちの一つに「年一度／受けよう健診／未来の自分にワンコイン」があります。健診の受診率向上に役場担当者や健康推進員による声がけをし、「町ができるのは環境づくり。実行するのは自分ですよ」と呼びかけています。

はしかみ健康フォーラムでの「健康宣言」（平成29年2月1日）

青森県階上町・鶴田町、岩手県洋野町とで実施された
「かるしおネットワーク研修会」（平成29年7月28日）

最近はウォーキングイベントもたくさん開催されている
（平成30年10月28日）

健康推進員へ委嘱状を交付。任期は2年で、
平成30年度には新人を含む50人が委嘱された

階上の基層

階上の歴史回廊をたどる

階上町は明治22年（1889）、町村制施行により8カ村が合併して階上村となり、昭和55年（1980）に町制を布いて階上町と改称しました。

この「階上」という地名については、熊野の修験やアイヌ語との関連も含めて諸説があります。『階上町史』には延暦4年（785）、大和朝廷の蝦夷（えぞ）攻略に従って東北地方に「多賀、階上」の2郡が置かれ、その後、北進とともに移し変えられていったなごりが、宮城県気仙沼市の階上、岩手県久慈市の端神、青森県三戸郡の階上岳で、階上村（町）はその階上岳から採用され、命名されたのではないだろうかと考察されています。

古くは縄文時代早期からの生活痕が確認され、赤保内（あかぼない）には神亀元年（724）に行基が海潮山應物寺（おうもつじ）として開山したと伝えられる寺下観音があり、奥行きの深い歴史回廊をたどることができます。

階上の基層 ①

歴史と文化財

有形文化財

鹿角製腰飾り（町指定）

寺下遺跡は、赤保内地区にある縄文時代後期前葉～弥生時代初頭（約3000年～2300年前）にかけての遺跡です。「鹿角製腰飾り」はこの遺跡の縄文時代晩期の貝塚から、ほぼ完全な形で出土しました。枝分かれしたシカの角を材料に、美しい模様が彫刻されており、祭祀の際に使用する杖の一部か、男性用装身具として考えられています。

膝を抱える土偶（町指定）

滝端遺跡は、平内地区にある約3000年前の縄文時代晩期遺跡です。発掘された「膝を抱える土偶」は腕や頭など各パーツごとに作られ、胴部に差し込まれて製作された珍しいものです。女性の安産を願った座産土偶ではないかとの説もあります。

寺下観音堂の梵鐘（町指定）

海潮山應物寺として開山された寺下観音堂は、仁治3年（1242）に一山焼失してしまいました。寛元4年（1246）に江山和尚が焼け跡から観音像を拾い、観音堂を建立し、その由来を「應物寺廃頽の記」としてまとめ、脇侍の毘沙門天像の胎内に納めたといわれています。

その後、正徳5年（1715）に津要玄梁和尚が毘沙門天像の胎内から巻物を発見、4代目八戸藩主南部広信公に進言し、その記録を刻んだ梵鐘を江戸神田の鋳物師・粉河丹後に鋳造させ納めました。

鐘の下に頭を入れて鳴らすと御利益が得られると、例年5月中旬の寺下観音例祭では多くの参拝客が列をつくります。

陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図（町指定）

明治6年（1873）に現在の階上町は第九大区四小区になり、明治22年（1889）の市町村制施行により階上村になりました。地引図は旧階上村合併以前のもので、田代村・晴山沢村・平内村・野沢村・鳥屋部村・角柄折村・赤保内村・道仏村の8村が、それぞれ2～4mほどの紙9枚に描かれています。

無形民俗文化財

えんぶり（国指定）

えんぶりは、「えぶり」という田を摺りならす農具を持って舞う（摺る）ことが名称由来といわれます。唄やしぐさがゆったりとした「ながえんぶり」と、テンポが速く活発な「どうさいえんぶり」があ

膝を抱える土偶

鹿角製腰飾り

陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図

寺下観音の梵鐘

鳥屋部えんぶり

り、平内えんぶりはながえんぶりで、文政元年（1818）に八戸の新井田横町から伝えられたそうです。

田代えんぶりは、明治38年（1905）頃に田部村杉沢（現南部町）の坂本西松氏を師匠に習得したどうさいえんぶりで、掛け声の「ドーサイ」をこの組では「ドーナイ」と使います。

えんぶりでは烏帽子（えぼし）の美しさも見ものの一つで、ながえんぶりには、牡丹や空木（うつぎ）の花がつき、どうさいえんぶりでは前部に五色のテープ状のふさがつきます。烏屋部えんぶりはどうさいでふさがつきます。創始が定かではなく、休止、復活を繰り返していましたが、昭和51年（1976）に復興して今に至ります。

駒踊り（こまおどり）（県指定）

古くから馬産地として知られる南部地方には、放牧の野馬を捕獲する勢子（せこ）や名子たちのしぐさを模した駒踊りが伝えられています。「赤保内駒踊り」は宝暦8年（1758）に、現在の五戸町切谷内から伝授されたといわれ、盆の祖霊供養で踊られるなど、念仏踊りとの関わりが深いようです。

鶏舞（けいばい）（県指定）

「平内鶏舞」は、安政元年（1854）頃に宮城県気仙沼方面から伝えられたとされ、盆中の祖霊供養で踊られます。

神楽（かぐら）（町指定）

300年以上も前から伝わる「道仏神楽」は、山伏神楽系の民俗芸能です。巡業の「霞掛け」には春祈祷や網祈祷がありました。獅子頭や神楽面も見ものです。

天然記念物

茨島（ばらじま）のトチノキ（県指定）

稲荷神社の御神木でもあり、樹高24m、幹囲6mの大樹。枝を支柱で支えるほどの古木・巨木です。県内最大級。

蛭子（ひるこ）のうつぎ（県指定）

樹齢推定不可能な古木で、アジサイ科の落葉低木ですが、高さ3m以上もあります。茎が空洞のため空木の花、または卯月（旧暦4月）に咲く花の意で「卯の花」とも呼ばれています。国内最大級。

銀杏木窪（いちょうのきくぼ）の大銀杏（県指定）

推定樹齢千年という町内一の古木で、明神小祠の御神木、「垂乳根の銀杏」とも呼び親しまれています。国内最大級。

平（たいら）のサイカチ（県指定）

実のさやは洗剤として活用され、豆果は生薬で去痰・利尿に、棘は腫れ物やリウマチに効くそうです。国内最大級。

赤保内駒踊り

平内鶏舞

道仏神楽

蛭子のうつぎ

銀杏木窪の大銀杏

平のサイカチ

茨島のトチノキ

階上の基層 ―― ②

寺下観音

寺下の滝（ジオポイント）

西国（近畿）
三十三観音の石仏

仁王門から見た寺下観音堂

神亀元年の開山説もある階上町のルーツ

階上岳の北東山麓にある寺下観音は、境内に入ると杉の大木に覆われた森厳な気配に圧倒されます。仄暗い中に深緑に苔むした岩の間を川が流れ、滝が落ち、堂宇や石仏が歴史の堆積のままに配置されて、静かに重層的な時間が流れているようにも感じられます。

寺下観音は神亀元年（７２４）に僧侶・行基が海潮山應物寺として開山し、聖観音座像を本尊として安置したと伝えられています。大同年間（８０６～１０）には坂上田村麻呂が寺下の地を訪れ、武将の神とされる経津主神を祀ったとも伝えられ、以来、神仏習合の聖地として尊崇されています。

その後、たびたび火災に見舞われて仁治３年（１２４２）に一山焼失して衰退しましたが、正徳２年（１７１２）に八戸生まれの僧侶・津要玄梁が寺下日向山に草庵を建てて布教活動に努め、堂塔を修復、杉を植林して再興しました。明治７年（１８７４）には別当の桑原家の願い出により観音堂が再建され、現在に至っています。

ここに、階上町の有形文化財に指定されている梵鐘はじめ、仁王門、小野道風作と伝えられる掲額、八戸藩主俳諧奉納額などがある観音堂、西国（近畿）三十三観音の石仏のほか、ライトアップされた寺下の滝や潮山神社、龍神の松やヤマフジの巨木等々があり、糠部三十三観音第一札所のパワーが十分に感じられます。

糠部三十三観音第一札所

岩手県北部を含むこの地方は古代末期から近世にかけて「糠部」と呼ばれていました。旧南部氏領の四門九戸（東門＝岩手県洋野町、西門＝岩手県二戸市・八幡平市、南門＝岩手県葛巻町、北門＝青森県田子町／一戸～九戸）の地方がほぼこれに当たるとされています。

ここには寛保３年（１７４３）、八戸天聖寺先住の則誉守西上人が設定した「糠部三十三観音霊場めぐり」があります。「観音信仰」はインドを起源に中国から

伝来し、「三十三」という数字は、中国古代の方形の思想から生まれた吉祥数といわれています。また、観音菩薩が衆生を救うとき、功徳（くどく）を与えるために三十三の姿に変化して三十三の霊場を巡拝するという信仰に由来していると伝えられます。

三十三カ所巡りは「西国三十三カ所」が有名で、寺下観音境内には西国三十三観音霊場から土を持参して埋めた上に各三十三体の石仏があります。また、青森県内にも「津軽三十三カ所」「田名部海辺三十三カ所」「七戸南部補陀落（ふだらく）」があり、「糠部三十三観音」は寺下観音を第一札所（巡礼スタートの発願（ほつがん）の地）とし、岩手県二戸市の天台寺桂清水（結願（けちがん）の地）までの間に、八戸市・南部町・三戸町・田子町・二戸町・軽米町の寺々が含まれます。

最近は、パワースポットを巡る観光客が増えているようですが、「糠部三十三観音」すべての札所を巡った後、札納めの天台寺へ御朱印帳を見せれば「結願之証」を発行してもらえます。

日向山山頂の燈明堂へ

寺下観音のもう一つの楽しみは日向山山頂の燈明堂へと辿る山道。寺下川のせせらぎが聞こえる小道を抜け、階段と坂を上って約1・5㎞、30分の道中には、延宝8年（1680）八戸に生まれ、延享2年（1745）66歳で没した中興の祖・津要和尚の墓所があります。

やがて五重塔（五楷堂）跡、岩淵権現岩、胎内めぐりなど数々の巨岩の間を通り抜け、燈明堂と倒壊した五重塔相輪部分のある日向山頂上に至ります。燈明堂は享保15年（1730）に八戸藩4代目藩主南部広信公の天然痘快復と舟の洋上安全祈願を兼ねて建立されました。

五重塔は延享元年（1744）に完成し、翌年8月4日に落慶供養が行われました。高さ約12mの日本建築史上最小で異色の五重塔でしたが、大正2年（1913）の大暴風雨で倒壊しました。

鐘撞堂

潮山神社

岩淵権現岩

日向山頂上の燈明堂

階上の三傑

寺下観音中興の祖・津要玄梁（しんようげんりょう）

津要玄梁は延宝8年（1680）、八戸湊柳町の若松屋に生まれたと伝えられ、出家して松館大慈寺（八戸市）、祇陀寺（ぎだじ）（盛岡市）、天台寺（二戸市）で修行し、正徳2年（1712）33歳で寺下日向山（ひなたやま）に草庵（津要庵）を結びました。その後、享保4年（1719）に寺下観音境内に杉を植林し、鐘楼の梵鐘の寄進を受けました。同15年（1730）日向山頂上に燈明堂を建立。延享2年（1745）8月4日には五重塔を完成させ、その年の12月に66歳で入寂しました。

津（川の渡し場）、梁（橋）の名が示すとおり、仏法と衆生の橋渡しとして布教活動に専念するほか、領内の寺社仏閣の再興、仏像の修復や作仏にも力を注ぎました。

また、燈明堂落慶の日には近郷15カ寺、藩主代参ほかの人々によって大供養が催されたと『八戸藩日記』にあるほど、信仰勢力は盛大になっていたようですが、津要自身は寺下観音における30余年のほとんどを、日向山の草庵で過ごしたと伝えられています。

海岸から約4㎞、燈明堂の明かりが常に海上から見えたように、人々の心に灯火を点し続けた生涯でした。

津要和尚の墓所（日向山中腹）

五重塔跡

蒼前平の水利事業に尽くした蛇口伴蔵（へびぐちばんぞう）

蛇口伴蔵は文化7年（1810）に八戸藩士葉山治右衛門の次男として生まれ、幼名は与八郎と名乗りました。14歳で父と死別し、文政10年（1827）軽米代官蛇口家の婿養子となり胤年と改名、家督を相続して伴蔵を襲名したようです。

文政13年11月、21歳の伴蔵は江戸勤番を命ぜられ、職務の傍ら幕府の儒者、昌平黌（しょうへいこう）の佐藤一斉門弟となる一方、八戸藩の学者立花文助のもとで易学を学びました。このとき、伴蔵は質素倹約して家を富ませる「富家の術」に目覚めました。

その蓄財の仕方が徹底していたため「商人侍」と揶揄（やゆ）されたようですが、意図は安政4年（1857）に隠居が認められてから明らかになります。それは私財を費やした大規模な水利事業で、伴蔵の大志は、安政4年に寺下観音に奉納した「営田の第一とするは水なり」で始まる願文で知ることができます。それは慶応2年（1866）9月に57歳で世を去るまで止むことはありませんでした。

計画では下洗（しもあらい）水利事業と階上岳水利事業を合わせて5つありましたが、実際に工事が進められたのは下洗水利事業と階上岳で、しかも結局は水漏れしやすい土質と長雨のため完成を見ることなく終

蛇口伴蔵の銅像（世増ダム左岸）

わりました。

階上岳中腹、石ノ倉と寺下川の2カ所から水を引き、蒼前平中央部の開拓からさらに蕪島あたりまで水路を通す蒼前平開発計画はその後、明治・大正年間の地元有志による上水事業や、昭和の赤保内地区土地改良事業組合の用水路に引き継がれました。そして、最終的には平成15年（2003）、国の八戸平原総合農地開発事業によって当時の南郷村に世増ダムが完成し、伴蔵の夢は結ばれました。

階上町水溜地区に残る蛇口用水路跡。明治・大正年間の上水事業で一部修復され、利用された（赤保内）

青森県誕生に貢献した太田広城

太田広城は天保9年（1838）、三戸郡角柄折村（現階上町角柄折）に八戸藩士太田喜満多久容の次男として生まれました。幼名は耕助、のちに直次郎と名乗り、家督相続後は喜満多久伝と改めました。広城という名前は、のちに八戸藩9代藩主南部信順公から贈られたものです。

近世から近代にかけての大変革期、広城の活躍には目を見張るものがあります。役職名でたどってみると、八戸藩時代は納戸役、屋敷固め砲術士、目付・勝手方取締役物産係となり、慶応4年（明治元年／1868）には八戸藩中老格として久保田藩（秋田）仙台藩へ派遣されて情報収集に当たりました。王政復古の大号令、戊辰戦争、野辺地戦争を経て奥羽の戦乱の平定後、八戸藩は沙汰なしとされたのは、その時々の危急を救った広城の英明な判断があったからでした。

その後、明治2年（1869）6月の版籍奉還から同4年の廃藩置県までは、八戸藩公用人を経て大参事（副知事級）まで昇格しました。現在の青森県域に5県（八戸・七戸・斗南・黒石・弘前）が誕生すると、斗南県小参事広沢安任と連名で内務卿大久保利通に「五県合併の建言」を提出・陳情し、弘前県を経て9月23日に南部・津軽の垣根を越えた青森県が生まれました。それらの功績が認められ、明治6年（1873）には県政改革によって青森県典事（副知事級）に就任しています。

明治8年に県役人を辞職した広城は、その後も北海道奥尻郡釣懸村ほか3カ村の戸長（現奥尻町長）に就任するなど先進的な手腕を発揮し、明治44年（1911）に波瀾万丈の生涯を閉じました。

太田広城肖像（明治2年東京にて）

角柄折の太田広城生家跡に設置された説明板除幕式（平成30年4月18日）

階上への移住・定住の現在

階上は〝ほどよい田舎〟です

階上町は青森県三戸郡の東部にあり、東は太平洋に面し、北西は八戸市、南は岩手県九戸郡軽米町・洋野町に接しています。中核市八戸には車で30~40分圏内。都市部に近い利便性と、自然豊かな環境が併存しています。

南端の県境には標高739・6mの階上岳があり、町域はその北麓に広がる海岸段丘の丘陵地が大半を占めて緩やかに海に至っており、山・里・海がコンパクトにバランスよく立地する町です。また、青森県の最東南端に位置するため、県内で最も早く朝日が昇る町としても知られています。

グリーンツーリズムやまちあるきなど、行政や住民、まちづくりグループも参加する着地型観光が注目されており、そのベースの一つ「食」に関しては、新鮮な地場産野菜・果実・穀類・魚介類が豊富で、「道の駅はしかみ」や「フォレストピア階上」「わっせ交流センター」「はしかみハマの駅あるでぃ~ば」などの観光・物産施設の産直コーナー、浜の魚屋さんなどがあります。

移住・定住への主な支援

【子育て】

保育料の保護者負担を軽減するため、国の徴収基準より保育料を減額しています。また、医療費給付事業として就学前の乳幼児の通院・入院費を助成するほか、小・中学生の通院・入院費を段階的に無料化しています。

さらに、平成31年度（2019年度）からは生後6カ月から中学3年生までと、妊婦及び産後1年未満の方を対象に、季節性インフルエンザ任意予防接種費用の一部について助成しています。

一時預かり事業として、生後6カ月~就学前児童を地域子育て支援センターで預かり（1月当たり14日以内）、様々なメニューを作って活動しています。また、ボランティアによる子育てサークル「にこにこクラブ」も、0歳から6歳までの未就園児と親を対象に、主に第3金曜日に活動しています。

そのほか、小・中学生を対象に、様々な体験学習を行う「わんぱく王国」を月1回程度開催しています。

【仕事】

農業次世代人材投資資金として、50歳未満の新規就農者に給付金を給付しています。

【住まい・交通】

階上町都市計画マスタープランの見直し及び立地適正化計画を策定することにより、住み良いまちづくりを検討しています。駅前中央団地では移住・定住・若年夫婦・子育て世帯を対象に、販売促進のための価格引き下げや助成をしています。また、町内に新築住宅を取得する方に、工事費または購入費の一部を補助します。

移住者紹介

Iターン14年目の西本匡（にしもとただし）さん

フィッシングガイドで起業

移住する人には共通する志向があるように思われます。一つは「好きなことをしたい」であり、もう一つは「その場所が好きだから」という理由です。そして、〝場所〟には自然・地形・地理のほか、歴史・民俗・文化などが育んだ固有の生態系（風土）があります。西本さんが階上町に移住して14年目を迎えているのは、その2点が満たされているからです。

佐賀県に生まれ、大学卒業後、東京で10年ほどサラリーマン生活を送っていた西本さんは、日に日に田舎暮らしへの願望が募り、幼少期に母方の実家がある岩手県水沢市（現奥州市）を訪れたときのイメージがあって、北へ向かいました。階上町に落ち着いたのは、父親がキユーピー株式会社に勤めていたつてがあったからで、北東北ではここだけにある工場を紹介されたからでした。

移住後、たまたま竿を出した小さな川で、思いがけず2週連続尺オーバーのヤマメが釣れたことが、釣りマニアの心に火を付けました。偶然の場所が必然の場所になっていくきっかけでした。そして平成23年（2011）3月11日、東日本大震災を体験したことを転機に「好きなことをしよう」と腹をくくり、4年後の27年（2015）6月に釣りガイドサービス「青

森フィッシングガイド」を立ち上げました。

いずれは階上岳のガイドを視野に

「一時間、幸せになりたかったら酒を飲みなさい。三日間、幸せになりたかったら結婚しなさい。…永遠に、幸せになりたかったら釣りを覚えなさい」。これは多くの釣り人が座右の銘とする中国の古い諺（ことわざ）。「もし釣りが仕事の妨げになるなら、仕事の方をあきらめなさい」（スパース・グレイ・ハックル）…こうなればもう『釣りバカ日誌』の世界ですが、西本さんの選択は釣りを仕事にすることでした。そのアイディアは、平成26年度の「あおもり発ベンチャー大賞ビジネスプランコンテスト」で優秀賞となりました。

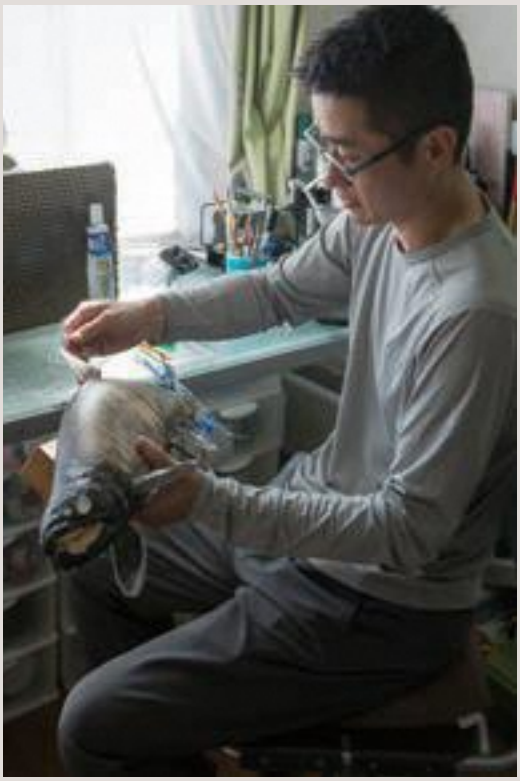
テーマは「観光と釣り」。その結果、星野リゾート奥入瀬渓流ホテルとの契約に結び付き、釣りガイドは人気のアクティビティメニューとなりました。

釣りは自然の生き物が相手である難しさがあり、試行錯誤した数年を経て、今は1月～2月＝小川原湖の氷上ワカサギ釣り、3月～4月＝魚の剥製（はくせい）作り、5月～9月＝奥入瀬渓流のイワナ・ヤマメ釣り、10月＝十和田湖のヒメマス釣りという年間のスタイルが定着しました。

折角の階上住いなのに、海釣りがないのは、天候の影響でコンスタントなガイドにならないからとのこと。ただし、階上岳はやはり魅力のフィールドでいずれは山ガイドも視野に入れているとか。

釣りガイドは体力を要するため、これからは若い同好の士と共に事業を広め、階上の地に土着していくのが夢とも語っていました。

階上町の自宅の庭で。
後ろの木立越しに見える山は
階上岳



自宅の工房でマスの剥製を作る西本さん

外国人への
渓流釣りガイド

まだまだ完成には時間がかかる
製作中の剥製

西本匡（にしもと・ただし）
昭和50年生まれ。佐賀県鳥栖市出身。中央大学文学部卒業後、都内で会社員に。平成17年、階上町に移住。平成27年、奥入瀬渓流を中心とした釣りガイドサービス「青森フィッシングガイド」を起業。家族は父と妻と子ども２人。43歳にして釣り歴38年。

「サイクリングの町」の可能性

自転車を活用したまちづくり

全国的に静かなブームになっている自転車は、生活の足のみならず、住民の健康増進や交通混雑の緩和、観光振興や環境への負荷軽減など、様々な公共利益増進の面でも効果があると期待されています。

国では、平成29年（2017）5月1日に「自転車活用推進法」を施行して各種施策に取り組んでいますが、翌30年11月15日には地方創生の先進的、先駆的な取り組みとするため、自治体が連携して「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村の会」が設立され、階上町も参加しています。

階上町は自転車の最適地

120年以上の歴史を誇るロードレース「ツール・ド・フランス」は、ピレネー山脈の山岳ステージなどサイクリストにとって憧れの的となっています。

日本では、毎年全国4カ所で行っている「ツール・ド・ニッポン」や、平成25年（2013）から開催している「ツール・ド・東北」、同26年から開催している茨城県鹿嶋市の鹿島神宮～八戸市蕪島（かぶしま）間の「ツール・ド・東日本鹿嶋」（愛称「鹿八（かはち）」）などがあります。タイムレースの「鹿八」以外はサイクリングを楽しむツーリングイベントで、景観以外に歴史・文化にも触れることができます。

階上町には、三陸復興国立公園の階上岳・階上海岸があり、ロードレースにもサイクリングにも最適なフィールドになっています。

平成29年6月23日～25日には国内最高峰の自転車レース「全日本自転車競技選手権大会ロード・レース」が24年ぶりに開催されました。2025年には青森県で開催予定の国民スポーツ大会で、自転車ロード・レースの開催地に内定しています。

また、平成30年10月14日には、階上町体力向上委託事業として、総合型地域スポーツクラブ一般社団法人ライズはしかみによる「Enjoy！サイクリングin階上海岸」が開催されたほか、八戸学院大学地域経営学部・松井研究室による「シクログはしかみ」も同時開催されました。これらを背景に「サイクリングの町」をPRしていくことにしています。

「全日本自転車競技選手権大会ロード・レース」男子エリートの走り。
エントリーは全部で422人、来場者数は11,500人

様々な自転車で「Enjoy！サイクリングin階上海岸」に参加した人々。
エントリーは40人

「シクログはしかみ」でアプリを確認する
八戸学院大学の学生たち
（八戸学院大学地域経営学部・松井研究室提供）

「Enjoy！サイクリングin階上海岸」で
階上海岸を楽しみながら走る参加者

【第4次階上町総合振興計画】――後期計画

ゆめ みらい 心ときめく ふるさとづくり

▼基本構想

階上町のまちづくりの将来像やこれを実現するための取り組みを定めるものです。平成22年度（2010年度）から平成31年度（2019年度）までの計画としています。

▼基本計画

基本構想の目標を達成するために、具体的に進めていく施策を体系的に定めたもので、ここでは後期5年間の基本計画の達成を図ります。

▼実施計画

基本計画で示した施策の基本方針と体系に従って、主要な事業の実施年度、実施主体、内容、事業費等について明らかにするものです。

●基本理念

「ゆめ みらい 心ときめく ふるさとづくり」

●将来像

「心豊かな生活と安心なくらしをみんなでつくる はしかみ21プラン」

未来を担う子ども達が、夢と希望と自信を持って成長できる地域社会の実現のため、住んでいて良かった、これからも住み続けたいと実感できるまちづくりの実現を目指します。

＊第4次階上町総合振興計画は平成31年度までの計画期間であり、現在、10年先を見据えたまちづくりの目標を設定した第5次計画を策定中です。

＊以降の頁では、「第2次地区計画／協働のまちづくりの現在」として、階上町のこれまでの「まちづくり」の概要を紹介します。

第２次地区計画

協働のまちづくりの現在

地区まちづくり計画は、平成19年（2007）に制定された「階上町協働のまちづくり条例」に基づき、各行政区の町民により、自分たちの地区の将来を展望し作られたものです。

翌20年には19すべての行政区において、計画が策定され、平成30年（2018）には第２次地区計画（2018～2027年度）が作られました。

ここでは、階上町における地区計画作成に至る経緯を知るために、これまでの「まちづくり」の概要を紹介します。

「地方創生」を協働の力で

憲法に定める「地方自治の本旨」とは、地方行政を国から自立した住民に身近な地方公共団体が担う「団体自治」と、住民が主役となって地域のあり方を決める「住民自治」とを指すのが基本原則として定着した理念でした。しかし、これだけ少子・高齢化が進んでくると、国や自治体が住民にサービスを全面提供し、住民が依存する「公助型」社会は成立しにくくなっています。そして、住民一人ひとりが自立し、国や自治体が側面支援する「自助・共助型」社会が求められています。

平成26年（２０１４）５月、日本創生会議「人口減少問題検討分科会」発表で、21世紀末には日本の現在の人口１億２千数百万人から５千万人程度まで、およそ半減するだろうというショッキングな報告がありました。また、若年女性が激減して、25年後の２０４０年までには地方自治体のほぼ半分に相当する８９６自治体が「消滅」の危機に瀕するという予測も衝撃的でした。

自然減に関しては、「20～39歳女性」将来推計人口によると、２０４０年の階上町の減少率は対２０１０年比マイナス66・３％と深刻です。

これは東京圏の４都県と、愛知、沖縄の２県を除く地方都市共通の課題で（総務省／２０１５年１月１日時点の人口動態調査）、政府は平成26年12月25日、人口減少対策の５カ年計画「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を発表しました。これには目指すべき将来の方向として①東京一極集中の是正②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現③地域の特性に即した地域課題の解決、の３項目が示されています。必要なことは創生総合戦略にも盛り込まれた「地方版総合戦略」の充実で、今こそ地方自治体や住民が協

働の力を発揮し、「地方創生」を本物にしていかなければなりません。

階上町の「協働のまちづくり」

階上町では早い段階から、最重要課題として「協働のまちづくり」に取り組んできましたが、それは「いろいろな立場の町民と行政とがそれぞれの責務に基づき、対等な立場で連携協力することにより、地域のサービスを共に支え、地域社会の発展のために取り組むこと」と定義されています。

この新しい自治体のシステムづくりのため、町では町民と共に平成17年度（2005年度）から順を追って対策を話し合ってきました。そして19年（2007）4月1日に「階上町協働のまちづくり条例」を施行し、同年5月には各地区で懇談会を開催しました。19行政区で「まちづくり計画書」を作成し、まちづくり町民会議で要望を具現化、アクションプランもできあがりました。

次いで、平成30年（2018）には第2次地区計画（平成30年度～平成39年度／2018年度～2027年度）が作られました。この計画書では、協働のまちづくりを推進していくに当たり、第1次地区計画の検証を行い、地区にある課題や問題の解決法を探り、①地域でできること②共同で取り組むこと③町が取り組むことといった形で役割分担が明確化されています。

内容は各地区ともオリジナリティにあふれ、地域への愛着が詰まった計画書となっています。19地区のキャッチフレーズは、次のとおりです。

平成30年（2018）に19行政区で作成された「第2次まちづくり計画書」

【地区キャッチフレーズ】

＊石鉢（いしのはち）…あいさつと笑顔で心和む石鉢
＊蒼前（そうぜん）…階上町の玄関口　学生もお年寄りも住みよい地域に
＊野場中（のばなか）…美しい姿で未来に残そう我が地域
＊角柄折（つのがらおり）…野鳥のさえずり　かたくりの彩り　守り続けよう　人のやさしさ
＊金山沢（かねやまざわ）…未来に残せる里　緑豊かな環境づくり
＊田代（たしろ）…共生のオアシスたしろ
＊晴山沢（はれやまざわ）…歴史と文化をはぐくみ緑豊かな里
＊平内（ひらない）…豊かな自然と　歴史文化が薫る　里
＊鳥屋部（とやべ）…未来に残そう豊かな自然と伝統文化
＊赤保内（あかぼない）…歴史文化の息づく緑豊かな里づくり
＊耳ケ吠西（みみがほいにし）…快適で安全に暮らせるまちづくり
＊耳ケ吠東（みみがほいひがし）…創ろう住み良い町に、育てよう協助の和

＊荒谷（あらや）…未来への継承「里地・里山」と「海」深まる絆
＊大蛇（おおじゃ）…さざ波のこだまする心和む里づくり
＊追越（おっこし）…朝日と潮騒に包まれ思いやりの心と笑顔あふれる地域
＊榊（さかき）…浜で遊び、良き伝統を継承し、元気で暮らせる榊地域
＊駅前（えきまえ）…階上駅とともに　90余年　いつまでも元気で明るい駅前地区
＊道仏（どうぶつ）…五（互）輪で繋ぐやすらぎとロマンの里づくり
＊小舟渡（こみなと）…夢をかたり　心かよわす　地域づくり

階上町の人づくり

地域づくり計画は、①目的②内容③主体④期間⑤資金、以上の5要素を明確にすることから始まるといわれています。この中で特に③の主体が重要で、人材や人的組織こそが地域の将来の方向を定め、導いていく原動力になります。階上町にあっては、早い段階からこの「人づくり」に関する事業がなされてきました。

平成6年度（1994）から3年間「生涯学習モデル市町村事業」の指定を受けたことをきっかけに、9年（1997）には第1回生涯学習のまちづくり町民大会を開催、13年（2001）には「学びの王国はしかみプラン」を策定、その2年後には特技や経験豊かな方々を登録した人材バンク「マナバンク」制度をスタートさせています。

そして平成18年（2006）に発足したのが「ふるさとかたり塾」です。これは、誰でも一緒にかだって（参加して）、ふるさとの未来をかたり（語り）ましょうというもので、「まちづくり夢プラン」として、団塊世代の活用、階上海岸リゾートプラン、海・岳を活用した行事計画、地場人材センターの設立などをテーマに開催し、19年（2007）には全行政区にまちづくりの担い手「地域アニメーター」を養成することと、「地区まちづくり計画」の策定を行いました。アニメーターとは、動画作家のことですが、階上町では〝地域を動かす人〟の意味で用いています。

さらに平成29年（2017）には、まちづくりコーディネーター（地域おこし仕掛け人）の養成講座「はしかみベース」を開催しました。これは同年8月から12月にかけて全7回の講演・フィールドワーク・ワークショップを行い、地域の課題を洗い出すと同時に地域の魅力を再発見しようという趣旨で、協働のまちづくりの一環である「第2次地区計画」の策定に関わる研修としても実施されました。

まちづくり
コーディネーター
（地域おこし仕掛け人）
の養成講座
「はしかみベース」
第7回修了式での
記念撮影

震災復興と防災の現在

大切な記憶の継承

階上町には海岸線に、明治29年（1894）から平成23年（2011）の東日本大震災までの津波記念碑が4基あります。災害の悲しみを忘れずに記憶を継承することで、自分が住む地域の特異性などを知ることができます。

例えば東日本大震災では、大蛇で最大10・73mの波の高さが観測されていますが、大蛇は昭和8年（1933）にも同様に町内で最も大きい被害を受けています。

『階上町史』には、「津波は南東の方向より襲来したが小舟渡海岸は南方の廿一崎に、追越海岸は高甲平の崎や雄島、雌島などの岩礁にさえぎられて被害は少なく、日ごろ漁船の出入りに便利な平坦地である大蛇海岸の被害が大きかった。大蛇の部落の北方にある大川という小流に沿うて奥深く侵入した津波は鉄道の線路を越えた」とあります。

重要なのは災害のアーカイブ（保存記録）で、そこから教訓を得て対策先行型の対応をし、〝減災〟につなげていくことです。

階上町の震災後の活動

平成23年（2011）3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震による東日本大震災は、わが国の地震観測史上最大のマグニチュード9・0を記録しました。震度5強という強い揺れを観測した階上町では、幸いにして人的被害はありませんでしたが、町全体の被害総額は約13億3600万円にも上りました。

町では平成23年（2011）10月16日、全行政区に自主防災組織を設立し、24年（2012）2月13日に「震災復興計画」を策定。3月11日には追悼式・復興祈念式典が開催され、同日、自主防災組織研修会も行われています。また、25年（2013）3月10日には「津波避難計画」が策定され、26年（2014）9月24日には階上町自主防災組織連絡協議会が設立されました。

その後、平成26年（2014）から、地域住民と中学生を対象に「防災リーダー塾」や「災害ボランティア講座」を開催するなどして意識の涵養を図るほか、避難所運営訓練では、参加者が総務情報、施設運営、要配慮者、衛生の4グループに分かれ、段ボールを使った空間作りや起床時間などのルール作り、要援護者のトリアージ（ケアの目安付け）を学んでいます。

災害時協定と災害時用公衆電話

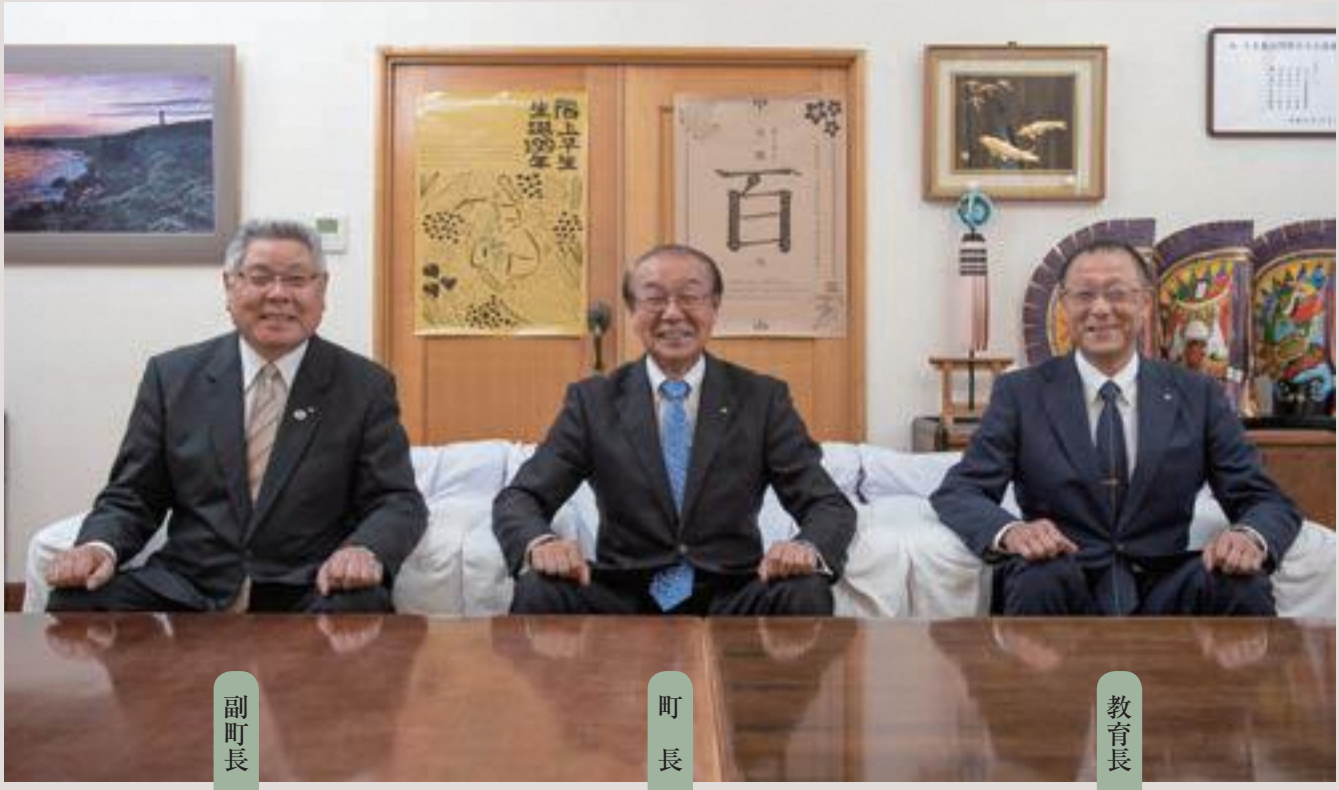
大震災以降、町では町内の各事業所と災害時の燃料や衣料品の供給、避難所の確保などに関する協定を結んできました。平成30年（2018）10月には町商工会建設工業部会と、大規模災害発生時の支援に関する連携協定を締結。また、同年10月から町内の小中学校や公民館など計16カ所に「災害時用公衆電話回線」を設置し、通信規制のない優先回線で利用できるようにしました。

大蛇海岸の護岸を越えて押し寄せる津波（平成23年3月11日）

大蛇漁港近くに復興の象徴としてオープンした
「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」内の「レストランMar」からの眺望

道仏交流センターで行われた避難所運営訓練で、
段ボールを使ってベッドを作る地域住民と中学生（平成30年9月11日）

行政――――信頼される行政を目指して

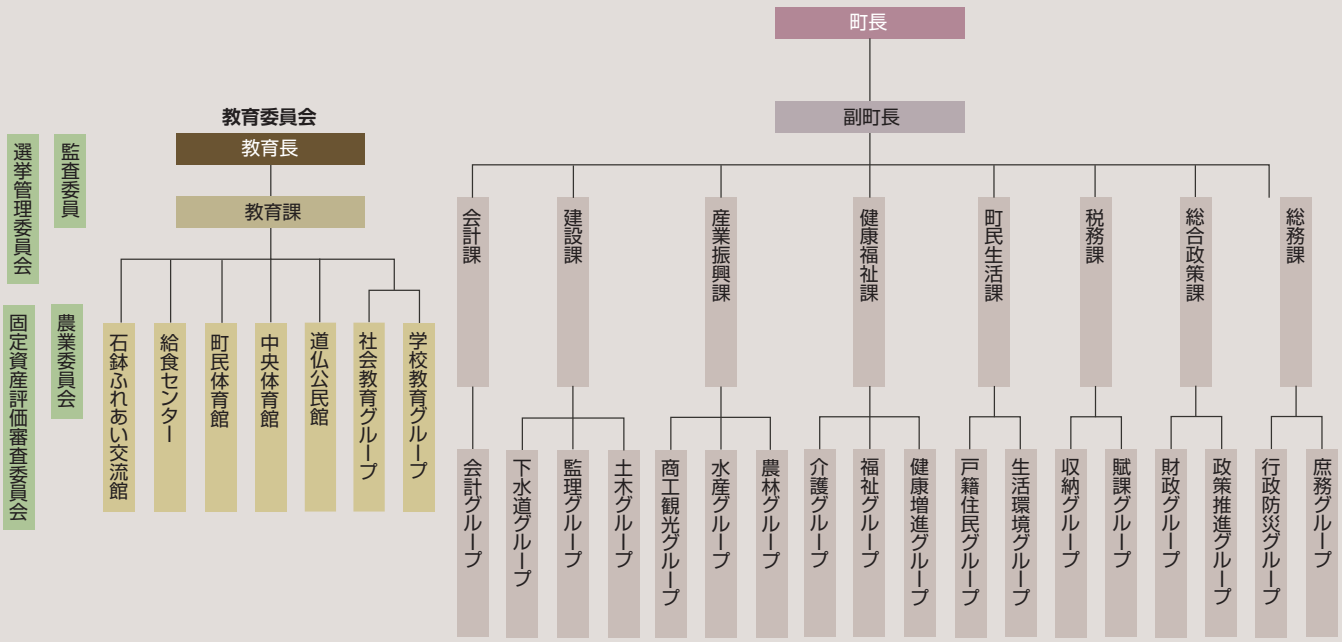


副町長 沼沢範雄

町長 浜谷豊美

教育長 丸岡博

行政組織図

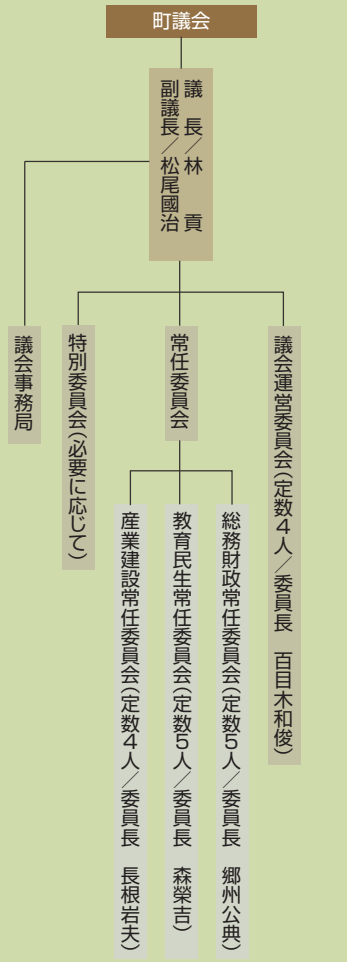


議会——町民と共に考える町づくり

議長 林 貢

副議長 松尾國治

町議会組織図



議席表

傍聴席側

林 貢 郷州 公典		
森 榮吉 長根 岩夫	松尾 國治 濵谷 貴樹	大江 和夫 百目木和俊
寅谷 正 下沢 育男	大下 修 荒谷 憲輝	上道二三男 小松 雅彦

議長席側

インフォメーション

階上町の概要

歴史

階上町には縄文時代から奈良・平安時代にかけて、人々の生活痕が確認されています。最古のものは、平内にある滝端遺跡から縄文時代草創期（約1万年前）の爪形文土器と石斧が出土し、そのほか平安時代に至るまでの遺跡が多数発掘されています。

歴史時代では、神亀元年（724）に僧侶・行基が寺下に應物寺（寺下観音）を創建したあたりがルーツといわれ、古代末期から近世初頭にかけては馬産地として知られる糠部の東の門地域に含まれていました。

中世では文安元年（1444）に琳阿孝寛大和尚が道仏に西光寺を開山し、戦国時代には道仏館の館主・赤松民部が領知して、ほぼ現在の集落の基盤が形成されたといわれています。その後、根城南部氏の領地となり、近世には盛岡藩領を経て八戸藩領に属していました。

近代に入ると、明治4年（1871）の廃藩置県によって八戸県に属し、弘前県、青森県と改変後、明治11年の郡制施行で三戸郡に編入され、明治22年の町村制施行によって旧8カ村を合併して階上村となりました。現在の階上町になったのは昭和55年（1980）5月1日の町制施行によるものです。

＊本文参照…21・22・24・25・26・27頁

階上町のルーツ・寺下観音

文化財

有形文化財には、陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図、滝端遺跡出土遺物、應物寺三尊像、寺下観音の梵鐘・蛇口伴蔵願文額・文化八年俳諧献額（町指定）などがあります。

無形民俗文化財（伝統芸能）には、豊作祈願のえんぶり（平内・田代・鳥屋部／国指定）、念仏踊り系の赤保内駒踊り・平内鶏舞（県指定）、山伏神楽系の道仏神楽、盆踊りの西光寺ナニャドヤラ（町指定）などが伝承されています。

天然記念物には、茨島のトチノキ・蛭子のうつぎ・銀杏木窪の大銀杏・平のサイカチ（県指定）などがあります。

＊本文参照…11・22・23頁

イベント

●寺下観音例祭…5月第3土・日曜日
●はしかみつつじマラソン大会…6月上旬
●はしかみ臥牛山まつり…6月上旬
●はしかみいちご煮祭り…7月下旬
●新そば祭り…10月下旬
●町民文化祭…11月上旬
●階上どんこ祭り…11月中旬
●えんぶり…2月17日～20日

＊本文参照…8・9・10・13頁

はしかみいちご煮祭り

地理・地形

青森県三戸郡の東部にあり、東は太平洋に面し、北西は八戸市、南は岩手県九戸郡軽米町・洋野町に接しています。南端の県境には標高739・6mの階上岳があり、町域はその北麓に広がる海岸段丘の丘陵地が大半を占めて緩やかに海に至っており、山・里・海がコンパクトにバランスよく立地する町です。また、青森県の最東南端に位置するため、県内で最も早く朝日が昇る町としても知られています。

＊本文参照…2・3・8・10・12頁

そば畑と階上岳

里地でのネギの収穫

階上岳石倉展望台の露頭した花崗閃緑岩

はしかみいちご煮祭りでの磯遊び（階上灯台下）

気候

気候は太平洋側気候で、夏は偏東風（やませ）の影響で冷涼であり、冬は北東ながら降雪量が少なく乾燥し、晴天が多いため日照時間も長いのが特徴です。平成29年（2017）の平均気温は10・5度、年間降水量は1023㎜でした。

動植物

●海浜植物…アズマギク・ハマハタザオ・ハマエンドウ・ウツボグサ・タツナミソウ・ハマヒルガオ・エゾツルキンバイ・ハマナス・ウミミドリ・ニッコウキスゲ・エゾスカシユリ・エゾフウロ・ナミキソウ・カワラナデシコ・ラセイタソウ・ツリガネニンジン・ハマギク

●野鳥…（留鳥）イソヒヨドリ・オオセグロカモメ／（夏鳥）ホオアカ・ウミネコ・ウミアイサ／（冬鳥）コクガン・ユリカモメ・シノリガモ

●魚介類…タコ・アイナメ・カレイ・エゾイソアイナメ（ドンコ）・ウミタナゴ・タラ・チカ・アワビ・ホヤ・ウニ・サバ・キツネメバル・エゾメバル・ウスメバル・クロソイ・スルメイカ・ヒラメ・アジ・イナダ・サケ・ナマコ・フノリ・ワカメ・アカハタ・マツモ

＊動植物は代表的なものを挙げています。

＊本文参照…12・13・19頁

ラセイタソウ

エゾスカシユリ

ウミミドリ

ハマハタザオ

ハマギク

エゾフウロ

ニッコウキスゲ

ハマヒルガオ

三陸復興国立公園
階上海岸
太平洋
至八戸
はしかみ
ハマの駅
●あるでぃ～ば
大蛇漁港
町の魚アブラメ
（青森県で一番早く
朝日が昇る町）
八戸久慈自動車道
青森県八戸市
㊧大蛇小
大蛇駅
アスナ公園
青森県栽培漁業
振興協会
アワビ
ウニ
●階上交番
●道の駅はしかみ
JR八戸線
ハマナス
ニッコウキスゲ
階上駅
泊川神社
小舟渡漁港
道仏公民館●
●道仏交流
センター
㊧道仏中
はしかみ
いちご煮祭り
会場
●階上灯台
㊧小舟渡小
●階上分署
●階上町役場
●ハートフルプラザ・
はしかみ
45
階上 IC
1
赤保内小㊧
階上中㊧
42
西光寺
卍
道仏小㊧
館神社
⛩
いちご煮
至久慈
●蛭子のうつぎ(国内最大級)
●給食センター
道仏神楽
茨島の
トチノキ●
(樹齢約
850年)
山館前公園
●
赤保内駒踊り
●銀杏木窪の大銀杏
(樹齢約 1000 年)
寺下観音●
町の鳥うぐいす
町の木けやき
岩手県洋野町
大湊
三厩
大湊線
奥津軽いまべつ
津軽線
北海道新幹線
新青森
小川原湖
野辺地
青森
青い森鉄道線
五所川原
五能線
川部
弘前
七戸十和田
八戸
階上町
八戸自動車道
階上駅
十和田湖
八戸線
奥羽本線
安代JCT
久慈
東北新幹線
IGRいわて銀河鉄道
東北自動車道
盛岡
町の花
つつじの群生地
階上岳
町営放牧場
三陸復興国立公園
階上岳
▲739.6m
龍神水

町内案内／交通アクセス

青森県八戸市

青森県階上町

種差海岸階上岳 IC

●町民プール

●石鉢ふれあい交流館

●ゆとり町民農園

八戸●カントリークラブ

⊗石鉢小

平のサイカチ●樹齢約 800 年（全国第 3 位）

●ふるさと河川公園

卍應物寺

⊗階上小

鳥屋部えんぶり

熊野堂

臥牛の塔●

●フォレストピア階上

●森の交流館

●はしかみ臥牛山まつり会場

そば畑

平内鶏舞

平内えんぶり

久慈街道

⛩日吉神社

西光寺ナニャドヤラ

●わっせ交流センター

卍西光寺

つつじの森キャンプ場

●田代せせらぎ公園
西登山口

田代えんぶり

山・里・海の香りギフト

階上町の里山・里海が育んだ四季満載の香りギフトです。

いちご煮缶詰

塩うに

階上早生階上そば

海藻ラーメン

おみそ汁の具

かぜ水

ジェラート

そば饅頭

かけくの海藻

そば焼酎早生のめぐみ

山ぶどう原液・山ぶどうジュース森の妖精

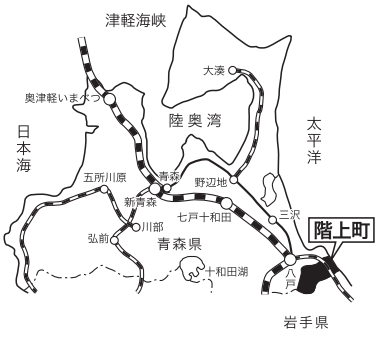
hashikami town data

資料編

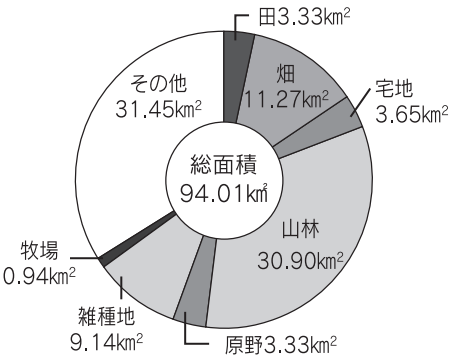
土地・人口・気象

■位　置

町域東端	東経141度41分00秒
西端	東経141度31分08秒
南端	北緯40度21分32秒
北端	北緯40度28分47秒
東西	13,960.056m
南北	13,492.011m
面積	94.01㎢



■地目別土地と面積



（平成30年度土地概要調書より）

■気象概況

区分	降水量	気温（℃）			風速（m/s）		日照時間	最深積雪
	(㎜)	平均	最高	最低	平均	最大	(h)	(cm)
平成26年	1,128.5	10.4	34.9	−10.2	5.0	20.3	2,011.1	61
27	912.5	11.3	36.1	−7.4	5.1	22.2	1,881.2	9
28	1,042.0	10.9	34.9	−8.1	5.0	25.9	1,910.0	9
29	1,023.0	10.5	35.8	−8.9	5.0	28.9	1,879.0	26

（気象庁ホームページより）

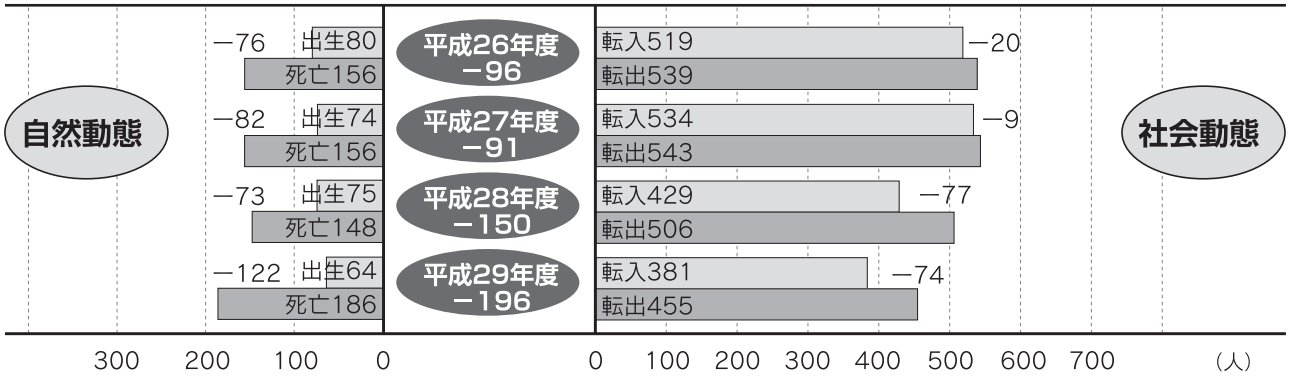
■人口と世帯数の推移

各年3月末日現在（単位：人、戸）

区　分	人　口			世帯数	1世帯当り人口
	男	女	計		
平成27年	7,036	7,044	14,080	5,804	2.43
28	6,981	7,012	13,993	5,878	2.38
29	6,934	6,910	13,844	5,898	2.35
30	6,868	6,780	13,648	5,902	2.31

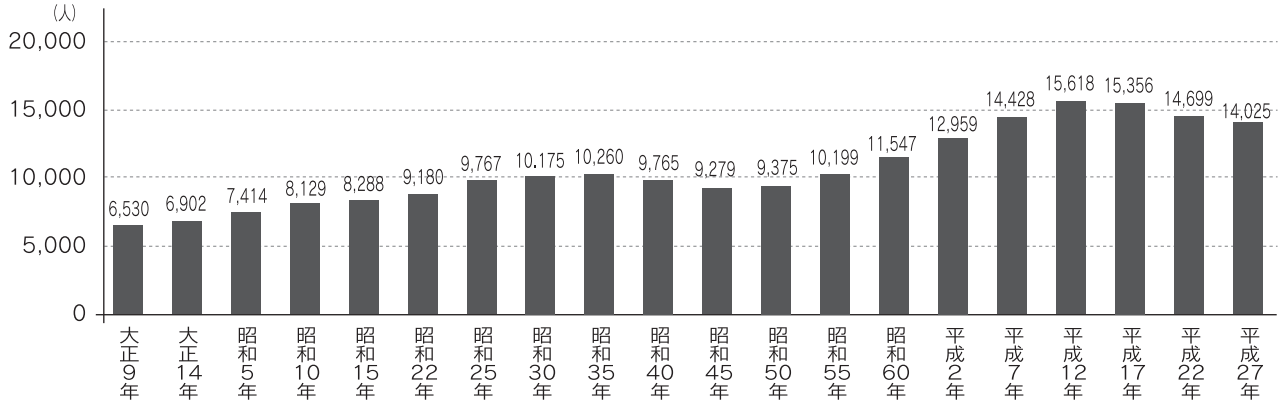
（平成24年7月9日住民基本台帳法の一部改正により外国人を含めた人口）

■人口動態



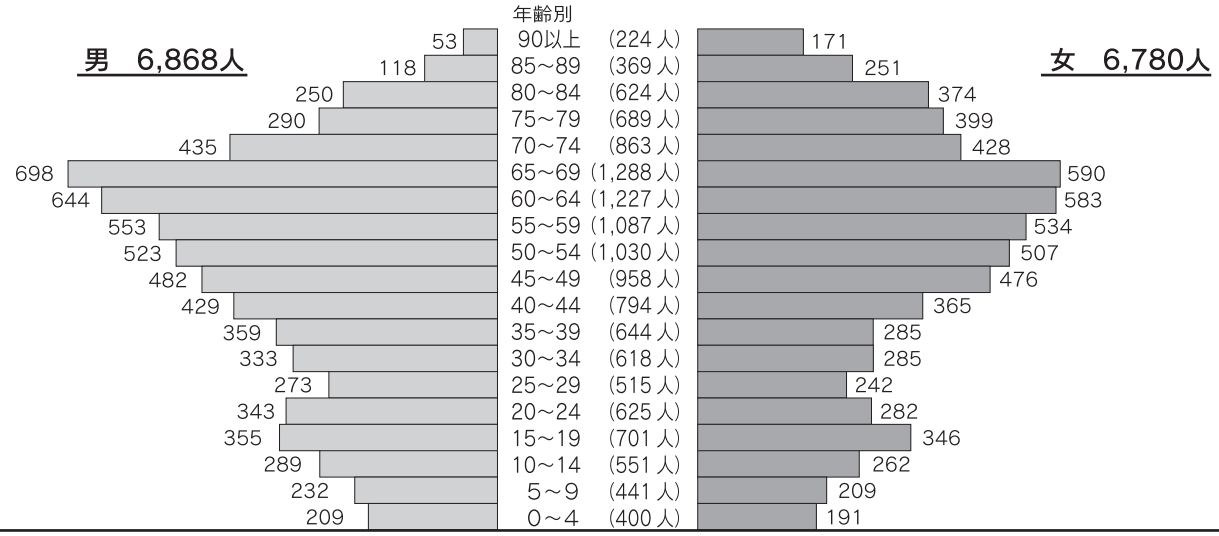
（平成24年7月9日住民基本台帳法の一部改正により外国人を含めた人口）

■人口の移りかわり（国勢調査）



（※昭和20年は国勢調査中止につき、昭和22年臨時調査の数値を掲載）

■年齢階層別人口



（平成24年7月9日住民基本台帳法の一部改正により外国人を含めた人口/住民登録人口/平成30年3月末日現在）

産業

■産業別就業者人口の推移

（単位：人）

年次	総数	第一次産業				第二次産業				第三次産業							産業分類不能の産業
		小計	農業	林業狩猟業	漁業水産業	小計	鉱業	建設業	製造業	小計	卸売小売業	不動産業金融・保険業	水道電気ガス業	運輸通信業	サービス業	公務	
平12	6,725	827	540	8	279	2,529	38	1,366	1,125	3,356	1,192	105	11	502	1,364	182	13
平17	6,835	793	543	7	243	2,132	22	1,147	963	3,845	1,087	135	10	565	1,886	162	65
平22	6,611	647	409	34	204	1,974	20	975	979	3,755	921	168	9	575	1,926	156	235
平27	6,480	563	387	25	151	1,961	16	1,011	934	3,818	929	175	9	565	2,008	132	138

（国勢調査より）

■農業生産の推移

区分／種別	平成26年		平成27年		平成28年		平成29年	
	作付面積(ha)	収穫量(t)	作付面積(ha)	収穫量(t)	作付面積(ha)	収穫量(t)	作付面積(ha)	収穫量(t)
米	106	541	106	557	96	498	84	433
豆類	13	14	10	14	15	28	17	30

（青森県統計年鑑より）

■専・兼別農家の状況

（単位：戸、人、ha）

区分／年次	農家戸数						農家人口			経営耕地面積				牧草専用地
	総数	自給的農家数	販売農家数	専業農家	兼業農家 第一種	兼業農家 第二種	総数	男	女	総数	田	畑	樹園地	
平成17年	491	221	270	47	33	190	1,139	576	563	525	142	378	5	168
22	482	228	254	62	30	162	1,013	503	510	482	150	327	5	144
27	404	210	194	64	17	113	319	147	172	483	114	365	4	147

（農家人口については販売農家の世帯員数/農林業センサスより）

■魚種別漁獲状況

（単位：kg、千円）

区分	年次	平成26年度 数量	平成26年度 金額	平成27年度 数量	平成27年度 金額	平成28年度 数量	平成28年度 金額	平成29年度 数量	平成29年度 金額
魚類	たら	506,778	176,660	466,843	157,491	263,217	100,971	73,878	33,518
	さめ	6,872	768	6,990	755	8,748	1,074	1,656	125
	ばばがれい	6,511	3,727	6,897	3,455	4,713	2,310	4,189	1,820
	その他かれい	1,215	286	1,237	260	989	232	697	189
	ひらめ	11,163	8,320	7,935	5,667	6,202	4,231	4,852	4,377
	さけ	298,329	125,863	233,056	112,201	177,927	123,769	261,294	205,428
	さくらます	305	300	1,088	1,116	18	12	243	124
	あいなめ	2,785	2,419	3,126	2,617	3,245	2,441	4,626	2,416
	そい	3,039	2,506	3,260	2,729	2,538	2,483	4,414	3,443
	その他魚類	25,035	9,143	26,542	9,643	61,774	21,895	49,229	15,454
	小計	862,032	329,992	756,974	295,934	529,371	259,418	405,078	266,894
貝類	あわび	7,903	61,595	7,951	63,854	4,425	31,132	3,504	26,184
	その他貝類	793	373	1,335	486	1,143	368	140	85
	小計	8,696	61,968	9,286	64,340	5,568	31,500	3,644	26,269
水産動物	するめいか	127,549	58,375	167,014	72,523	182,439	105,960	263,815	151,420
	たこ	47,678	28,111	45,658	25,450	73,850	37,059	39,366	22,143
	うに	16,648	26,402	16,424	20,591	27,225	37,789	20,374	33,002
	ほや	1,310	884	300	101	245	135	870	347
	小計	193,185	113,772	229,396	118,665	283,759	180,943	324,425	206,912
藻類	こんぶ	0	0	0	0	0	0	0	0
	わかめ	5,857	1,064	3,863	927	8,055	1,278	6,513	1,398
	その他藻類	3,416	2,470	3,705	2,549	3,839	2,290	4,620	2,648
	小計	9,273	3,534	7,568	3,476	11,894	3,568	11,133	4,046
	合計	1,073,186	509,266	1,003,224	482,415	830,592	475,429	744,280	504,121

（青森県海面漁業に関する調査結果書より／一部、調査時期に関係し実数が反映されていない部分がある）

■産業細分類別の状況（飲食店を除く）

産業分類＼項目	事業所数	従業員数（人）	年間商品販売数（百万円）	売場面積（㎡）
織物、衣服、身の回り品小売業	6	19	230	1,387
飲食料品小売業	25	111	993	2,124
機械器具小売業	4	6	100	63
各種商品小売業	－	－	－	－
その他小売業	13	173	×	8,903
無店舗小売業	2	2	×	－
小売業計	50	311	4,796	12,477
卸売業計	11	46	2,644	－
合計	61	357	7,441	12,477

（「×」については経済産業省が秘匿として公表／平成26年商業統計調査より）

■誘致企業

企業名	誘致年	業種	住所	電話
階上キユーピー㈱	昭和63年	食品製造	角柄折字新沼舘9－159	88－2011
㈱キユーソー流通システム階上営業所	昭和63年	物流	角柄折字新沼舘9－159	88－4666
八戸炭酸カルシウム工業㈱	平成 3年	石灰製造	角柄折字柳平28－6	88－4831
共立工業㈱	平成 3年	鋼構造物工事・鉄骨工事	道仏字耳ヶ吠1－1	88－5050
㈱ダイヤレックス	平成 4年	電気機械・器具製造	蒼前東八丁目6－5	88－3040
伊勢屋金網工業㈱八戸営業所	平成25年	金網製造・販売・施工	蒼前東一丁目9－91	88－3361

建設

■道路・橋梁

（平成28年4月1日現在）（単位：m）

区分	路線数	実延長	路線別内訳		橋梁	
			舗装	砂利	橋数	延長
国道	2	14,692	14,692	0	1	11
県道	4	32,957	32,954	3	6	39
合計	6	47,649	47,646	3	7	50

（平成30年3月9日現在）（単位：m）

区分	路線数	実延長	路線別内訳		橋梁	
			舗装	砂利	橋数	延長
1級町道	11	36,930	34,791	2,139	13	144
2級町道	24	54,556	46,335	8,221	14	195
その他の町道	271	167,598	102,809	64,789	16	128
合計	306	259,084	183,935	75,149	43	467

■町営住宅の状況

団地名	建設年度	構造	戸数
つくしケ丘団地（赤保内字柳沢15−20）	平5	木造平屋	5戸
〃（〃）	〃	〃	10戸
榊山団地（道仏字榊山9−95）	平19	木造平屋（1LDK）	12戸
〃（〃）	〃	〃（2LDK）	15戸
〃（〃）	〃	木造2階（3LDK）	3戸

消防

■消防力の組織と消防施設の現況

（平成30年4月1日現在）

広域消防					自治消防						消防水利		
消防署数	職員数	ポンプ自動車	水槽付ポンプ自動車	救急自動車	消防団数	分団数	団員数	ポンプ自動車	水槽付ポンプ自動車	小型動力ポンプ	消火栓	防火水槽	
												40㎥	40㎥未満
1	18人	1台	1台	1台	1	8	147人	6台	1台	9台	321基	83基	4基

保健・衛生

■国民健康保険加入状況

	総人口		国保加入		加入率		保険税（一般の現年分）		
	世帯数（年度末）	人　員（年度末）	世帯数（年度末）	人　員（年度末）	世帯数	人員	調定額（千円）	収入済額（千円）	収納率
平成26年度	5,804	14,080	2,495	4,253	43,0%	30.2%	415,893	367,331	88.3%
27	5,878	13,993	2,428	4,045	41.3%	28.9%	394,202	354,404	89.9%
28	5,898	13,844	2,281	3,670	38.7%	26.5%	399,969	363,638	90.9%
29	5,902	13,648	2,158	3,409	36.6%	25.0%	357.303	327,931	91.8%

■国民年金（拠出制）適用状況

（単位：人）

年　度　別	被　保　険　者　数				免除者等数
	第１号	任意加入	第３号	合　計	
平成26年度	2,120	13	813	2,946	943
27	1,969	16	778	2,763	824
28	1,734	15	754	2,503	809
29	1,551	10	716	2,277	746

（年度末現在）

■要介護認定者数の推移

（単位：人）

要　介　護　度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	人　数	人　数	人　数	人　数
要　支　援　1	38	33	34	14
要　支　援　2	53	53	42	30
要　介　護　1	98	125	137	151
要　介　護　2	104	114	138	154
要　介　護　3	101	110	98	100
要　介　護　4	87	92	115	89
要　介　護　5	83	85	84	94
合　　計	564	612	648	632

（各年度末人数）

■主要死因別死亡者数

（単位：人）

項目／年次	悪　性新生物	脳血管疾　患	心疾患	肺　炎	老　衰	自　殺	その他	計
平成25年	48	18	17	13	12	2	52	162
26	53	16	16	14	12	4	51	166
27	39	10	19	8	14	5	50	145
28	42	15	15	6	13	4	55	150

（青森県保健統計年報より）

議会

■歴代議長

歴代	氏　　名	在　任　期　間
初代	根　岸　清　人	昭22．5　～昭26．4.29
2	上　野　安太郎	昭26．5．7～昭30．4.29
3	桑　原　一　郎	昭30．5.10～昭34．4.29
4	松　倉　耕　造	昭34．5.18～昭38．4.29
5	中　田　時　安	昭38．5.15～昭42．4.29
6	大　江　八　郎	昭42．5.12～昭46．4.29
7	上　野　正　藏	昭46．5．6～昭58．3.29
8	坂　本　清之助	昭58．5．9～昭62．9.15
9	荒　谷　剛　生	昭62.10．1～平　2．7.23
10	野　沢　和　也	平　2．7.23～平　3．4.29
11	宗　前　勝　雄	平　3．5.10～平　7．4.29
12	前　田　常　男	平　7．5.17～平11．4.29
13	荒　道　鶴　造	平11．5.14～平15．4.29
14	桑　原　一　夫	平15．5．6～平19．4.29
15	松　森　　蒿	平19．5.11～平23．4.29
16	木　村　勝　彦	平23．5.12～平27．4.29
17	山　田　惠　治	平27．5.11～平31．4.29
18	林　　貢	令元．5.13～現　　在

■歴代副議長

歴代	氏　　名	在　任　期　間
初代	盛　　常　丸	昭22．5　～昭26．4.29
2	桑　原　一　郎	昭26．5．7～昭30．4.29
3	大　江　八　郎	昭30．5.10～昭34．4.29
4	北　城　善　衛	昭34．5.18～昭38．4.29
5	小　松　　清	昭38．5.15～昭42．4.29
6	正部家　淑　郎	昭42．5.12～昭46．4.29
7	柳　沢　与兵衛	昭46．5．6～昭50．4.29
8	荻ノ沢助右衛門	昭50．5．8～昭54．4.29
9	大　前　武　雄	昭54．5．1～昭58．4.29
10	下　野　岩　男	昭58．5．9～昭62．4.29
11	浜　谷　照　雄	昭62．5.23～昭62．9.12
12	荒　谷　剛　生	昭62．9.16～昭62．9.30
13	金　沢　啓　一	昭62.10．1～平　3．4.29
14	山　田　昭　治	平　3．5.10～平　7．4.29
15	浜　谷　豊　美	平　7．5.17～平11．4.29
16	平　戸　茂　雄	平11．5.14～平15．4.29
17	畑　中　弘　實	平15．5．6～平19．4.29
18	土　橋　信　夫	平19．5.11～平23．4.29
19	加　藤　　祐	平23．5.12～平27．4.29
20	畑　中　弘　實	平27．5.11～平31．4.29
21	松　尾　國　治	令元．5.13～現　　在

■町議会議員名簿

（◎委員長、○副委員長）

議席番号	氏　　名	所属委員会
1	下　沢　育　男	産業建設
2	寅　谷　　正	教育民生
3	荒　谷　憲　輝	総務財政
4	大　下　　修	○教育民生
5	小　松　雅　彦	産業建設
6	上　道　二三男	総務財政
7	長　根　岩　夫	◎産業建設

議席番号	氏　　名	所属委員会
8	森　　榮　吉	◎教育民生
9	濵　谷　貴　樹	○産業建設
10	松　尾　國　治	総務財政
11	百目木　和　俊	教育民生
12	大　江　和　夫	○総務財政
13	郷　州　公　典	◎総務財政
14	林　　貢	教育民生

（令和元年5月13日現在）

行政

■歴代村長及び町長

歴代	氏　　名	在　任　期　間
初代	盛　城　勝　三	明22．6.22～明30．6.25
2	小　幡　茂　周	明30．6.26～明35．6.10
3	菊　池　勝　章	明35．6.11～明39．6．6
4	正部家　利三郎	明39．6.11～大　4．8.24
5	正部家　伊太郎	大　4．9.12～大　7．5．8
6	久　保　　節	大　7．6．7～大10．3.16
7	中　田　岩太郎	大10．3.17～大14．3.16
8	野　沢　三　蔵	大14．4．7～昭　3．5.20
9	柳　沢　豊　吉	昭　3．5.21～昭　7．5.20
10	川　村　末　吉	昭　7．5.28～昭19．5.27
11	浜　谷　辰之助	昭19．6.13～昭21.11.14
12	茨　島　豊　蔵	昭22．4．7～昭30．3.22
13	中　田　清　助	昭30．5．1～昭46．4.29
14	荒　谷　定　蔵	昭46．4.30～昭58．4.29
15	正部家　佑　介	昭58．4.30～昭62．4.29
16	桑　原　三津夫	昭62．4.30～平元.11.21
17	正部家　佑　介	平元.12.24～平13.12.23
18	上　山　博　一	平13.12.24～平17.12.23
19	浜　谷　豊　美	平17.12.24～現　　在

■歴代助役及び副町長

歴代	氏　　名	在　任　期　間
初代	菊　池　勝　章	明22．6.22～明35．6.10
2	正部家　利三郎	明35．7.25～明39．6．6
3	角　田　勇　亀	明39．7.19～大　2．6.24
4	正部家　米三郎	大　2．6.25～大　3．8.17
5	渡　部　源　三	大　3．8.18～大　6．4.12
6	大　芦　梧　楼	大　6．4.13～大　7．5．2
7	久　保　　節	大　7．5．3～大　7．6．6
8	伊　藤　正　純	大　7．6.10～大14.12.20
9	稲　葉　萬　蔵	大14.12.21～昭　2．5.30
10	小　幡　茂　信	昭　2．5.31～昭14．4.30
11	松　倉　清　蔵	昭14．5．1～昭22．4.30
12	柳　沢　熊次郎	昭22．5．1～昭34．4.30
13	中　村　正　一	昭34．6.14～昭46．9.19
14	中　田　時　安	昭46.10．1～昭58．4.29
15	出　町　　茂	平元．4．1～平　4．3.31
16	根　岸　勇　蔵	平　4．4.10～平　8．4．9
17	中　村　禮一郎	平　8．4.22～平12．4.21
18	笹　山　一　夫	平14．1.15～平17.12.23
19	高　谷　清　孝	平18．4．1～平21．3.31
20	久　保　和　子	平22．1.25～平27．3.24
21	沼　沢　範　雄	平27．4．1～現　　在

教育・文化

■歴代教育委員長

歴代	氏　名	在任期間
初代	根岸清人	昭31.10. 1～昭35. 3.22
2	山田恵造	昭35. 3.30～昭38. 4.10
3	橋本勇	昭38. 5.13～昭54. 9.30
4	根岸典男	昭54.10.11～昭56. 1. 9
5	堰合庄一郎	昭56. 1.21～昭59. 9.30
6	上平清	昭59.10.18～昭60. 9.30
7	上沢勝司	昭60.10. 1～平 6.10.30
8	松川富男	平 6.12.20～平 8. 3. 1
9	小沢勝司	平 8. 3.21～平16. 9.30
10	濱浦清志	平16.10. 1～平20. 6.22
11	熊谷道雄	平20. 6.23～平27. 3.31

（法律改正に伴い委員長職は廃止）

■歴代教育長

歴代	氏　名	在任期間
初代	柳沢熊次郎（助役兼務）	昭26. 4. 1～昭28. 3.31
2	中田清助（校長兼務）	昭28. 4. 1～昭30. 3.31
3	柳沢熊次郎（助役兼務）	昭31.10. 1～昭32. 3.28
4	渡部鎭	昭32. 3.29～昭33. 9.27
5	小松定吉	昭33.10. 1～昭34. 5.23
6	柳沢熊次郎	昭34. 7. 9～昭39. 9.18
7	辻良正	昭39.10. 1～昭44. 3.31
8	中田時安	昭44. 5. 1～昭46. 9.30
9	梅津武次郎	昭46.11. 1～昭55. 6.30
10	小松福蔵	昭55. 7. 1～昭61. 9.30
11	大釜安也	昭61.12.20～平10.12.12
12	山本雅教	平11. 1. 8～平16.10. 1
13	村上富士夫	平17. 4. 1～平23. 1. 9
14	川浪孝雄	平23. 3.18～平27. 3.17
15	川浪孝雄	平27. 4. 1～平31. 3.31
16	丸岡博	平31. 4. 1～現在

■小中学校の状況

学校名＼区分	創立年月日	学級数	教職員数	児童生徒数		
				男	女	計
階上小	明 8.10.30	4	8	5	7	12
石鉢小	昭25. 3.31	11	24	119	108	227
赤保内小	大12. 3.27	8	17	94	84	178
道仏小	明 7. 9.13	7	13	31	18	49
大蛇小	明35. 4. 9	4	9	22	18	40
小舟渡小	明35. 4.13	5	9	11	13	24
小学校計		39	80	282	248	530
階上中	昭22. 4.21	11	29	127	118	245
道仏中	昭22. 4.21	4	14	49	43	92
中学校計		15	43	176	161	337
合計		54	123	458	409	867

◇登切小　（明 7.1.1創立）平成22年3月31日閉校
◇金山沢小（大13.7.7創立）平成23年3月31日閉校

平成30年5月1日現在

■指定文化財一覧

指定	種別		名称	指定年月日	所在地
国	重要無形民俗文化財	芸能	平内えんぶり	昭和54年 2月 3日	平内地区
	〃	〃	田代えんぶり	〃	田代地区
	〃	〃	鳥屋部えんぶり	〃	鳥屋部地区
県	無形民俗文化財	芸能	鶏舞	昭和34年10月 6日	平内地区
	〃	〃	南部駒踊	昭和36年10月 6日	赤保内地区
	記念物	天然記念物	茨島のトチノキ	昭和30年 1月 7日	赤保内字茨島2
	〃	〃	蛭子のうつぎ	昭和31年 5月14日	赤保内字蛭子4－2
	〃	〃	銀杏木窪の大銀杏	平成30年 4月 9日	道仏字銀杏木窪
	〃	〃	平のサイカチ	〃	角柄折字平3
町	有形文化財	額	蛇口胤年願主　安政４年願文額	平成20年 3月21日	赤保内字寺下8
	〃	額	星風亭白虎願主　文化８年俳諧献額	〃	〃
	〃	額	未風願主　文政元年俳諧献額	〃	〃
	〃	額	根城屋与五郎願主　天保14年俳諧献額	〃	〃
	〃	額	常丸願主　嘉永２年俳諧献額	〃	〃
	〃	工芸	梵鐘	〃	〃
	〃	彫刻	三尊像	〃	角柄折字蕨9－3
	〃	考古	寺下遺跡出土遺物	〃	道仏字天当平1－87
	〃	考古	滝端遺跡出土遺物	〃	〃
	〃	史料	陸奥国三戸郡第九大区四小区地引図	平成23年 3月24日	〃
	〃	〃	寺下久右衛門八戸縣用途金献納文書	平成29年 3月27日	赤保内字寺下8
	〃	〃	天保百姓一揆書留	平成31年 3月27日	〃
	〃	史跡	明治二十九年「海嘯死亡者之碑」	平成29年 3月27日	道仏字廿一
	〃	〃	明和八年「大蛇海岸の海嘯記念碑」	〃	道仏字大蛇30－1
	無形民俗文化財	芸能	道仏神楽	平成20年 3月21日	道仏地区
	〃	〃	西光寺ナニャドヤラ	〃	晴山沢地区
	記念物	天然記念物	柳沢家のアサダ	平成29年 3月27日	角柄折字柳平9

財政

■一般会計歳入決算額の推移

（単位：千円）

区分		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
自主財源	町税	1,089,010	1,109,581	1,130,392	1,138,487
	諸収入	153,708	186,304	147,874	149,979
	繰越金	96,776	173,862	155,448	152,218
	分担金・負担金	83,097	10,477	11,512	10,446
	使用料・手数料など	35,297	35,390	40,693	34,469
	繰入金	511,679	445,621	437,517	316,862
	小計	1,969,567	1,961,235	1,923,436	1,802,461
依存財源	地方交付税	2,409,328	2,428,701	2,392,723	2,301,583
	国庫支出金	699,017	741,626	837,510	671,873
	町債	451,200	614,900	391,700	443,300
	県支出金	469,841	438,303	444,140	631,404
	地方消費税交付金	141,200	236,291	211,393	215,551
	地方譲与税	79,095	83,621	82,942	82,798
	その他の交付金	35,040	38,375	38,239	47,832
	小計	4,284,721	4,581,817	4,398,647	4,394,341
合計		6,254,288	6,543,052	6,322,083	6,196,802

■一般会計歳出決算額の推移

[目的別]

（単位：千円）

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
民生費	1,443,673	1,459,268	1,618,290	1,557,795
公債費	849,003	804,162	831,684	792,628
総務費	973,520	1,150,502	1,054,908	1,037,868
教育費	750,931	869,900	573,443	572,264
土木費	657,318	762,451	833,440	652,761
農林水産業費	390,897	293,867	297,403	578,100
衛生費	395,776	387,647	329,415	323,278
諸支出金	240,610	271,218	201,058	100,665
消防費	107,824	53,542	55,228	57,255
議会費	87,619	95,080	87,130	85,926
商工費	63,193	37,969	59,279	47,272
災害復旧費	63	1,999	28,588	77,504
合計	5,960,427	6,187,605	5,969,866	5,883,316

■特別会計歳出決算額の推移

（単位：千円）

区分＼年度	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
国民健康保険	1,761,936	1.1%	2,017,616	14.5%	1,904,333	△ 5.6%	1.827,965	△ 4.0%
漁業集落排水事業	40,494	△ 8.1%	37,834	△ 6.6%	38,998	3.1%	42,059	7.8%
介護保険	1,162,526	1.2%	1,210,596	4.1%	1,244,201	2.8%	1,280,710	2.9%
公共下水道事業	261,125	18.8%	322,478	23.5%	321,765	△ 0.2%	311,071	△ 3.3%
後期高齢者医療	96,384	0.2%	98,318	2.0%	102,798	4.6%	108,960	6.0%
歳出合計	3,322,465		3,686,842		3,612,095		3,570,765	

選挙

■選挙の執行状況

選挙名	執行年月日	投票当日の有権者数	投票者数	投票率
衆議院議員総選挙	平成26年12月14日	11,751	5,907	50.27%
青森県議会議員一般選挙	平成27年 4月12日	11,619	5,111	43.99%
階上町議会議員一般選挙	平成27年 4月26日	11,612	7,466	64.30%
青森県知事選挙	平成27年 6月 7日	11,603	4,883	42.08%
参議院議員通常選挙	平成28年 7月10日	12,050	6,657	55.24%
青森県東部海区漁業調整委員会委員一般選挙	平成28年 8月 3日	632	530	83.86%
衆議院議員総選挙	平成29年10月22日	11,897	6,115	51.40%
階上町長選挙	平成29年12月17日	11,785	5,513	46.78%
青森県議会議員一般選挙	平成31年 4月 7日	11,590	4,382	37.81%
階上町議会議員一般選挙	平成31年 4月21日	11,582	6,654	57.45%
青森県知事選挙	令和元年 6月 2日	11,580	4,100	35.41%

主要施設一覧

（市外局番　0178）

役場施設		
階上町役場	道仏字天当平1-87	88-2111
学校給食センター	赤保内字蛭子11-55	80-1194
ハートフルプラザ・はしかみ	道仏字天当平1-182	88-2522
道仏公民館	道仏字横沢15-4	89-2110
道仏交流センター	道仏字横沢15-4	87-3322
民俗資料収集館	赤保内字耳ヶ吠6-2	88-4193
石鉢ふれあい交流館	蒼前東七丁目9-4	80-1671
町民プール	蒼前東七丁目9-4	80-1671
中央体育館	鳥屋部字狐平8	88-4084
町民体育館	道仏字天当平1-150	88-2821
森の交流館	鳥屋部字行人17-2	88-4588

小・中学校		
階上小学校	鳥屋部字大鶴音1-2	88-3122
石鉢小学校	角柄折字石鉢14-2	88-2703
赤保内小学校	赤保内字耳ヶ吠6-1	88-2019
道仏小学校	道仏字外窪21-1	89-2015
大蛇小学校	道仏字大蛇30-1	89-2221
小舟渡小学校	道仏字廿一2-1	89-2343
階上中学校	赤保内字柳沢15-2	88-2018
道仏中学校	道仏字蓬窪4-7	89-2121

保育園・認定こども園		
道仏保育園	道仏字向17-3	89-2210
認定こども園 階上保育園	道仏字榊平17-2	89-2302
認定こども園 石鉢保育園	角柄折字柳下6-15	88-3621
認定こども園 はまゆりこども園	道仏字天当平1-327	88-2101

産業・観光関係施設		
フォレストピア階上	鳥屋部字大柿1-2	88-4449
わっせ交流センター	平内字上道1-1	88-2709
道の駅はしかみ	道仏字耳ヶ吠3-3	88-1800
はしかみハマの駅あるでぃ～ば	道仏字大蛇203-208	38-3166

警察・消防		
八戸警察署階上交番	道仏字耳ヶ吠2-1	88-2022
八戸東消防署階上分署	道仏字耳ヶ吠31-3	88-2105

その他		
階上町社会福祉協議会	道仏字天当平1-182	88-3067
八戸農業協同組合階上支店	蒼前東一丁目9-805	88-2221
階上漁業協同組合	道仏字榊山5-61	89-2111
階上町商工会	道仏字天当平1-129	88-2045
(公社)青森県栽培漁業振興協会	道仏字榊平 17-1	87-3360
階上郵便局	赤保内字耳ヶ吠6-28	88-2100
階上駅前郵便局	道仏字榊山10	89-2100
陸奥田代郵便局	田代字庭野4-2	88-2160

年表

西暦	年号	事柄
七一四〜七二八	神亀元年〜5年	僧行基、寺下に海潮山應物寺を開山する。
一二九九	文治5年	南部光行、奥州征伐の勲功により源頼朝から糠部5郡を賜る。
一三四二	仁治3年	海潮山應物寺、雷火による山火事のため灰燼に帰す。
一三四六	寛元4年	僧江山、應物寺廃頽の記録をすると共に應物寺を再興する。
一四四四	文安元年	酬蓮社泰誉上人琳阿孝寛大和尚、道仏に海中山西光寺を開山する。
一四四八	文安5年	道仏の舘神社、赤松民部助義信によって草創される。
一五六九	永禄12年	道仏城主赤松民部吉時、九戸政実の軍を蒼前平に迎え打ち敗走させる。
一五七五	天正3年	道仏城、九戸政実の攻撃を受けて落城。
一五九一	天正19年	九戸政実の乱鎮定する。
一六〇四	寛文4年	南部直房八戸2万石を与えられる。（現在の階上町は八戸領となる）
一六四四	貞享元年	得蓮社息誉見生和尚、晴山沢に晴山沢西光寺を開山する。
一六八四	〃	この頃、現在の階上町は6カ村となっていた。鳥屋部村、角柄折村、平内村、晴山沢村、田代村、道仏村。（赤保内は鳥屋部村に、金山沢は松舘村に含まれていた）
一七二二	正徳2年	僧津要玄梁、寺下観音に参篭し「海潮山應物寺廃頽の記」を発見する。
一七二三	正徳3年	八戸藩士接待宗碩、大蛇海岸に経塚を建てる。（現存）
一七一九	享保4年	第4代八戸藩主南部広信、寺下観音に梵鐘を寄進する。（現存）
一七三〇	享保15年	寺下灯明堂落成供養、八戸藩主より毎年銭5貫文を別当野沢彦六に給する。
一七三四	享保19年	晴山沢村（現在の晴山沢地区）に山王堂建立される。（現在の日吉神社の前身）
一七四五	延享2年	寺下五重の塔落成供養（8月4日）僧津要玄梁没す。
一七六〇	寛政2年	江戸時代中期の勤王家高山彦九郎、田代村に泊り盛岡方面に向う。
一七九四	寛政6年	小舟渡金刀比羅神社勧請。
一七九八	寛政10年	角柄折村（現在上明戸地区）にのちの江戸相撲大関秋津風音右衛門生まれる。（39歳で引退）
一八〇一	亨和元年	伊能忠敬、奥州沿岸測量の旅で小舟渡、榊、追越、大蛇を経て鮫村に止宿する。
一八〇四	文化元年	野田源太夫が鳥屋部村に寺子屋を開く。同じ頃千葉弥右衛門が角柄折村に寺子屋を開く。
一八〇七	文化4年	八戸藩浦堅め（海岸防備）の場所として小舟渡海岸を定める。（藩内6カ所）
一八一七	文政10年	この頃道仏村（現在大蛇地区）に江戸相撲前頭四枚目、千

西暦	年号	事柄
一八三〇	天保元年	年川音松生まれる。のちに大関・剣山を破る活躍を見せる。
一八三四	天保5年	村永竜法が道仏村に寺子屋を開く。
一八三八	天保9年	八戸糠塚にのちの大沢多門（明治年間八戸町戸長を務める）、根井沢定右衛門生まれる。（道仏字浜久保において明治39年没す）
一八四八	嘉永元年	角柄折村（現在の角柄折地区）にのちの八戸県大参事太田広城生まれる。
一八五三	安政元年	川島民浄が晴山沢西光寺に寺子屋を開き明治6年まで続いた。
一八五七	安政4年	小舟渡海岸に八戸藩の台場（砲台）が築造される。
一八六一	文久元年	八戸藩士蛇口胤年（伴蔵）、水運開発事業の願文を寺下観音に納める。
一八六四	慶応元年	蛇口用水、寺下、石ノ倉の両所から蒼前平に達する。
一八六八	慶応4年	三田某が平内に寺子屋を開く。
一八六八	〃	戊辰戦争が起こる。太田広城、八戸藩主中老職として戦後処理に奔走。八戸藩領を戦禍から守る。
一八六九	明治2年	小舟渡お台場の防備が強化される。
		諸藩の版籍奉還を許し、諸藩主が藩知事に任命される。（南部信順、八戸藩知事となる）
一八七一	4	廃藩置県の詔書が発布され現在の階上町は八戸県の所属となる。同年八戸県は弘前県に合併され、さらに同年9月23日青森県と改称される。
一八七二	〃	潮山神社が建設される。
一八七二	〃	太田広城、広沢安任（斗南藩士）と共に洋式牧場を開くべく、イギリス人ルセールとマキノンを雇い、谷地頭（現三沢市）に牧場を開く。
一八七二	5	太田広城、青森県典事となる。（明治6年青森県大参事へ、明治8年8月に退官）
一八七三	6	大小区制により現在の階上町は第9大区4小区となる。（この頃の階上村は田代村、晴山沢村、平内村、鳥屋部村、金山沢村、角柄折村、赤保内村、野沢村、道仏村の9カ村）
一八七三	〃	海岸に面する道仏村（現在の大字道仏）では塩釜（製塩工場）が6カ所にあった。
一八七四	7	登切小学校、道仏小学校が創立。
一八七五	8	角柄折小学（現階上小学校）が創立。
一八七五	〃	野沢村が赤保内村に合併。（現在の大字赤保内となる）
一八七八	11	郡制施行により8カ村を合わせた戸長役場が角柄折村正部家に開設。
		太田広城、北海道福山（現松前町）に渡り開墾の指導を行う。（明治18年、北海道奥尻郡釣懸村他3カ村の三代戸長となり、明治23年退官）
一八八〇	13	

西暦	年号	事柄
一八八六	明治19年	階上村（8カ村）の地押（測量）を行い、持主ごと一筆ごとの照査なされる。
一八八六	〃	会計年度が改正され、4月1日起算となる。
一八八七	20	角柄折村正部家に巡査駐在所が開設される。（その後鳥屋部、小舟渡、耳ケ吠へと移転する）
一八八七	〃	角柄折に私立養蚕伝習所が開設される。
一八八九	22	市町村制施行により階上村となる。（道仏村、角柄折村、赤保内村、田代村、晴山沢村、平内村、金山沢村、鳥屋部村の8カ村を合わせて階上村とする）
一八八九	〃	鳥屋部に天野玄致が医院を開業。村内はじめての開業医となる。（大正14年没）
一八九六	29	三陸沿岸一帯に大津波襲来。（死者21名、家屋流失1、家屋全半壊5軒、納屋流失12軒、漁船流失13隻など）
一八九九	32	木村謌村、鳥屋部に生まれる。（歌人、県文化賞受賞者・東京において昭和41年没す）
一九〇二	〃	田代に郵便局が開局。（県下75番目の開局）
一九〇二	35	田代巡査駐在所が開設。
一九〇二	〃	八戸の政治家、奈須川光宝と関春茂が蛇口水堰の復旧を試みる。（のち2年ほど蒼前平に稲が作付される）
一九〇三	〃	大蛇小学校、小舟渡小学校が創立。
一九〇三	〃	太田広城、八戸へ帰郷。（旧八戸藩士族の老年会会長、八戸俳諧倶楽部会長を務め、明治44年、75歳で没す。八戸市糠塚大慈寺に眠る）
一九一〇	43	田代郵便局電信業務を開始。
一九一三	大正2年	寺下の五重の塔が暴風雨により倒壊。
一九一六	5	晴山沢青年団結成。
一九一八	7	大正2年の大凶作をもたらした冷害気象下でも在来品種のソバが相当の収穫量を得られ、同4年の試験場での試験で優れた風味であったため、この年「階上早生」と命名される。
一九一八	〃	平内に天然痘発生。（死者7人）
一九一九	8	役場を耳ケ吠に移転。翌9年新庁舎を落成。
一九二〇	9	第1回国勢調査。（本村人口6530人）
一九二三	11	村に電灯が灯る。
一九二三	〃	階上村消防組を組織。（35人）
一九二三	12	赤保内小学校が創立。
一九二三	〃	小舟渡地区に消防組を組織。
一九二四	13	金山沢小学校が創立。
一九二四	〃	階上駅が開業（八戸線が種市〈現在の洋野町〉まで開通）
一九二五	14	村内に腸チフスが蔓延。
一九二六	昭和3年	階上郵便局が耳ケ吠に開局。
一九二九	4	階上駅前郵便取扱所開設。（現在の階上駅前郵便局の前身）

西暦	年号	事柄
一九三三	昭和8年	三陸沿岸大津波襲来。（死者2人、行方不明者1人、家屋流失10軒、納屋流失12軒、漁船流失99隻など）
一九三三	〃	農林省主催、全国馬匹博覧会に東北代表として出品された軽乗馬「藤代号」が日本一の名誉賞を獲得。（地代所清蔵氏所有馬）
一九三三	〃	田代・鳥屋部地区に消防組を組織。
一九三三	〃	階上早生が青森県奨励品種に採用される。
一九三四	9	榊山地区（現在駅前地区）に消防組を組織。
一九三六	11	鳥屋部に乳牛（ホルスタイン種）導入。
一九三七	12	電話が開通。
一九三七	〃	「警防団令」の公布により消防組が警防団に改組。
一九三九	14	耳ケ吠診療所に橋本勇医師を村医として招へい開院。
一九三九	〃	葉たばこの栽培が始まる。
一九三九	〃	小舟渡地区民家から火災が発生。１２６戸中、小舟渡小学校を含む48戸全焼。
一九三九	〃	階上郵便局が電話交換業務を開始。
一九四〇	15	階上村国民健康保険組合事業開始。（戦後の混乱により昭和24年廃止）
一九四〇	〃	村内初の消防ガソリンポンプ榊山地区警防団に配備。
一九四一	16	階上村にはじめて自家用貨物自動車が入る。
一九四二	17	階上村森林組合設立。
一九四三	18	耳ケ吠診療所解体。新田に移転診療所開設。
一九四三	〃	階上農業会、階上漁業会設立。
一九四四	19	鳥屋部尋常小学校（階上小学校）、健康優良学校日本一を受賞。
一九四五	20	登切小学校焼失。翌年新校舎完成。
一九四五	〃	米軍機に空襲をうける。（階上駅、小舟渡小、大蛇小学校が爆撃され被害）８月15日終戦。
一九四七	22	階上中が階上小に、道仏中が道仏小に併設。
一九四七	〃	警防団が消防団に改組。
一九四七	〃	道仏警察官駐在所が榊山に設置。
一九四七	〃	村上寿男氏耳ケ吠に医院開業。（昭和27年まで）
一九四八	23	大蛇小学校焼失により、新校舎完成。
一九四八	〃	階上村農業会が解散。階上村農業協同組合、階上村第1農業協同組合、道仏農業協同組合の3組合が設立。
一九四八	〃	東平地区１４３・８haに32戸入植。
一九四九	24	村内に南部バスが運行される。
一九四九	〃	小舟渡、榊、荒谷、大蛇の各漁業会が設立される。
一九四九	〃	田代診療所を開設。
一九四九	〃	第1回村内産業品評会開催。
一九五〇	25	石鉢小学校が創立。
一九五〇	〃	階上中学校に金山沢、登切冬季分校併置。

西暦	年号	事柄
一九五〇	昭和25年	階上村遺族会結成。
一九五一	26	保温折衷苗代普及される。
一九五一	〃	第1回階上村乳牛品評会開催。
一九五一	〃	新田、神子沢地区65・９haに15戸入植。
一九五一	〃	階上中学校新校舎、角柄折字蝙蝠地区に完成。金山沢、登切中学校分校設置。
一九五二	27	荻沢甚作氏（晴山沢）、郷土研究誌「はしかみ」創刊。
一九五二	〃	大蛇、追越、榊漁港階上村管理第1種漁港に指定。
一九五三	28	大蛇漁港整備県単独事業着工。
一九五三	〃	道仏中学校校舎、道仏字榊山地区に新築移転。
一九五三	〃	村社会福祉協議会が結成。
一九五四	29	海潮山應物寺、角柄折字蕨に再興される。
一九五四	〃	霜害により農作物被害甚大。
一九五四	〃	村内初の自動車ポンプが耳ケ吠（旧第1分団）に配置。
一九五四	〃	金山沢、登切分校が独立昇格して金山沢中、登切中学校となる。
一九五五	30	広報はしかみ第1号発行。
一九五五	〃	階上村連合青年団結成。
一九五五	〃	階上村児童生徒文集「すぎの子」創刊。
一九五六	31	乳児死亡率県内最高となる。（人口１０００対１４４・４）
一九五六	〃	八戸線大蛇停留所が開設。
一九五六	〃	階上村連合婦人会創立。
一九五七	32	村内にはじめての保育園が道仏地区に開設。
一九五七	〃	階上村にはじめてテレビが入る。
一九五八	33	階上村農業協同組合が合併設立。（酪農協、第1農協、道仏農協、階上農協が合併）
一九五八	〃	役場庁舎が新築される。
一九五九	34	小舟渡廿一に無人灯台を設置。
一九五九	〃	国民健康保険事業が開始。
一九五九	〃	国民年金の福祉年金が開始。
一九六〇	35	村体育協会設立。第1回村民体育大会開催。
一九六〇	〃	チリ地震津波襲来、被害甚大。（漁船、漁網などてんさい（ビート）の栽培が行われる。（昭和42年まで）
一九六〇	〃	階上村診療所を開設。
一九六〇	〃	階上村母子福祉会結成。
一九六一	36	階上漁業協同組合が合併設立。（小舟渡、榊、荒谷、大蛇の各漁業会が合併）
一九六一	〃	大山津見神社つくし森に再建される。
一九六一	37	田代地区簡易水道完成。
一九六一	〃	階上村商工会設立。
一九六二	〃	榊漁港整備県単独事業着工。
一九六二	〃	農業共済事業村移譲となる。

西暦	年号	事柄
一九六二	昭和37年	階上村連合ＰＴＡ結成。
一九六二	〃	階上村観光協会設立。階上岳つつじ祭り開催。（観光漁業行われる）
一九六三	38	道仏小学校校舎焼失により新校舎完成。
一九六三	〃	耳ケ吠地区簡易水道完成。
一九六四	39	児童生徒用教科書が無償給付される。
一九六四	〃	登切小学校で給食開始。（村内初）
一九六四	〃	国民健康保険事業7割給付実施。
一九六四	〃	第1回階上村社会福祉大会開催。
一九六四	〃	村民より公募し村章の制定、村旗を樹立。
一九六四	〃	追越漁港局部改良工事着工。
一九六五	40	階上村老人クラブ連合会結成。
一九六五	〃	八戸美保野地区で発生した山林火災が松森・笹畑地区に飛び火８ha焼失。
一九六六	41	大蛇地区簡易水道完成。
一九六六	〃	学校牛乳給食が始まる。
一九六六	〃	県より派遣保健婦常駐。
一九六六	〃	第1回村内駅伝大会開催。
一九六六	〃	階上村連合青年団全国青年大会に初出場。
一九六六	〃	村単敬老年金支給開始。
一九六六	〃	第1回共同保健計画会議開催。
一九六六	〃	条例改正により村議会議員定数18人となる。
一九六七	42	中央公民館落成。（現在の民俗資料収集館）
一九六七	〃	移動教育庁、本村にて開かれる。
一九六七	〃	第1次農業構造改善事業着工。（昭和44年完了）
一九六七	〃	八戸平原開発促進協議会が設立。（八戸市、階上村、南郷村、岩手県軽米町）
一九六七	〃	階上駅前郵便局が完成。
一九六七	〃	八戸地区環境整備組合1市1町3村で設立。
一九六八	43	十勝沖地震、津波襲来、沿岸の被害甚大。（漁網など）
一九六八	〃	村戦没慰霊塔の建立。合同慰霊祭開く。
一九六八	〃	移動採血車による献血、移動検診車による胃がん検診が行われる。
一九六九	44	第21回三戸郡総合体育大会が階上で初開催。
一九六九	〃	小舟渡漁港改修事業着工。
一九六九	〃	へき地患者輸送車運行開始。
一九六九	〃	階上村身体障害者更生会結成。
一九六九	〃	国道45号舗装工事完成。
一九六九	〃	青森テレビ（ＡＴＶ）の階上中継所が階上岳の大開に完成。
一九七〇	45	国土調査事業地籍調査が始まる。（平成2年完了）
一九七〇	〃	米の生産調整が始まる。

年表

西暦	年号	事柄
一九七一	昭和46年	東北大学理学部地震観測所階上岳中腹に設置。
一九七一	〃	稚蚕共同飼育所設置される。
一九七一	〃	大蛇漁港局部改良工事着工。
一九七一	〃	八戸地域広域市町村圏事務組合八戸東消防署階上分遣所が耳ケ吠に設置される。
一九七一	〃	耳ケ吠地区消防団が廃止され、階上村消防団が4分団に改組。（1分団小舟渡、2分団田代、3分団鳥屋部、4分団駅前）
一九七一	〃	農村集団電話が開通。
一九七一	〃	里山再開発事業を実施。（林道5路線昭和48年完了）
一九七一	〃	第1回観光漁業祭開催。（昭和50年まで）
一九七一	〃	不燃物、可燃物ごみ収集開始。
一九七二	47	階上村商工会館が完成。
一九七二	〃	金山沢地区スクールバス路線改良工事完成。
一九七二	〃	道仏公民館が開館。
一九七二	〃	第1回青森・岩手県境交通安全大会開催。
一九七二	〃	榊漁港局部改良事業着工。
一九七三	48	階上中学校が開校。（階上、登切、金山沢の3中学校統合）
一九七三	〃	学校給食センターが完成。センター方式による小中学校の完全給食が実施。
一九七三	〃	階上中学校スクールバス2台購入運行される。
一九七三	〃	NHKテレビ中継局の設置により難視聴（海岸一帯）地区が解消。
一九七三	〃	異常渇水により駅前地区に給水車が出動。
一九七三	〃	老人家庭奉仕員を配置。
一九七三	〃	除雪ドーザー導入。
一九七三	〃	コンブ、ワカメ、ホヤの増殖事業が始まる。
一九七三	〃	国保直営診療所を開設。
一九七三	〃	農業共済組合の合併により三八農業共済組合が発足。
一九七三	〃	交通指導隊、各小学校PTA交通安全母の会結成。
一九七三	〃	ながいも栽培が行われる。
一九七三	〃	小舟渡漁港改修工事着工。
一九七三	49	道仏地区簡易水道完成。
一九七四	〃	田代地区山林火災発生。（300haの焼失、損害約2億2千万円）
一九七四	〃	小舟渡漁港関連道路が開通。
一九七四	〃	電話がダイヤル化される。（村内全域）
一九七四	〃	階上岳が県立自然公園の編入指定を受ける。
一九七四	〃	階上歯科診療所開設。
一九七五	50	榊山地区村営住宅30戸完成。（昭和48年着工）
一九七五	〃	老人憩の家（寿荘）完成。
一九七五	〃	村内初の階上中学校プール完成。

西暦	年号	事柄
一九七五	昭和50年	登切～小松倉線改良工事完成。
一九七五	〃	電子計算機による共同事務処理開始。（住民登録など）
一九七五	〃	角柄折地区簡易水道工事着工。（昭和52年完成）
一九七六	〃	県道八戸大野線舗装工事完成。
一九七六	51	赤保内小が交通安全子供自転車県大会で優勝、全国大会に出場。
一九七六	〃	構造学習研究会全国大会を道仏小学校で開催。
一九七六	〃	農林大臣に八戸平原総合農地開発事業を申請。
一九七六	〃	進路指導研究集会東北大会を道仏中学校で開催。
一九七六	〃	異常気象により水稲平年作の56％減収。
一九七七	52	階上漁村センターを新築。
一九七七	〃	記録的な大雪に見舞われ被害出る。
一九七七	〃	映画「季節風」野口五郎、大竹しのぶら本村初のロケーション。
一九七七	〃	道仏体育館がオープン。
一九七七	〃	福祉バスを購入運行。
一九七七	〃	あすなろ国体炬火リレー通過。
一九七七	〃	階上村誌を刊行。
一九七七	〃	村自治功労者表彰式並びに自治法施行30周年記念式典を挙行。
一九七七	〃	はしかみ音頭を制定。
一九七七	〃	道仏の西光寺（大蛇長根）が移転新築される。
一九七七	〃	県道鳥屋部十日市線舗装工事完成。
一九七八	53	国営八戸平原総合開拓事業に伴い石鉢地区にモデル圃場完成。（平成2年まで）
一九七八	〃	階上村商工会第1回夏祭り開催。
一九七八	〃	第1回村民文化祭開催。
一九七八	〃	公衆衛生事業功労団体として厚生大臣賞を受賞。
一九七九	54	階上村社会福祉協議会が社会福祉法人となる。
一九七九	〃	国保診療所が天当平に移転新築。
一九七九	〃	種苗供給施設の完成。（大蛇海岸）
一九七九	〃	県立栽培漁業センター（第1期工事）追越地区に完成。
一九七九	〃	突風による被害甚大。（校舎、民家等、3月31日最大瞬間風速33・2m）
一九七九	〃	山手地区簡易水道の完成。
一九七九	〃	交通死亡事故ゼロ千日を達成。（7月26日）
一九七九	〃	第1回村民歩こう大会実施。
一九八〇	55	階上村出稼ぎ協会設立。
一九八〇	〃	町制施行により「階上町」となる。
一九八〇	〃	町民より公募「町の花・木・鳥」及び町民憲章を制定する。
一九八〇	〃	町内初の婦人消防クラブ（田代）結成。
一九八〇	〃	冷害による被害8億6300万円に達する。
一九八一	56	ボランティアサークル「けやき」結成される。

西暦	年号	事柄
一九八一	昭和56年	地域集団電話から一般電話となる。
一九八一	〃	多目的研修センター「潮風荘」完成。
一九八一	〃	県立栽培漁業センター完成。（アワビの種苗生産開始）
一九八一	〃	第1次町総合振興計画を策定。
一九八一	〃	登切火防団が町消防団第5分団として発足。
一九八一	〃	道仏中学校校舎が完成。
一九八二	57	役場庁舎を天当平に移転新築。
一九八二	〃	豪雨により9億8200万円の被害を受ける。
一九八二	〃	青森銀行階上支店が開業。
一九八二	〃	石鉢ふれあい広場が完成。
一九八二	〃	道仏中学校体育館が完成。
一九八二	〃	駅前郵便局が移転新築。
一九八三	58	田代えんぶり保存館が完成。
一九八三	〃	南郷村島守地区で発生した山林火災が金山沢地区に飛び火18ha焼失。（被害額約1千万円）
一九八三	〃	民俗資料収集館がオープン。
一九八三	〃	第1回むつ湾一周駅伝競走大会、町の部準優勝。（大会は平成4年まで）
一九八三	〃	階上岳に漁業無線局が完成。
一九八三	〃	中央体育館がオープン。
一九八四	59	農村婦人の家が完成。
一九八四	〃	青森放送の階上テレビ局が開局。
一九八四	〃	老人福祉センターがオープン。
一九八四	〃	町消防団第2分団（田代）が全国消防操法大会で優良賞受賞。
一九八四	〃	平内えんぶり保存館が完成。
一九八四	〃	農村総合整備モデル事業が始まる。
一九八四	〃	ワードプロセッサ役場に導入。
一九八五	60	石鉢小学校校舎が完成。
一九八五	〃	町消防団が県知事表彰旗を受賞。
一九八五	〃	勤労者体育センター（現町民体育館）がオープン。
一九八五	〃	蒼前集会所が完成。
一九八五	〃	誘致企業第1号「島田縫製㈲階上工場」操業開始。
一九八五	〃	国際森林年町制施行5周年記念植樹祭開催。
一九八五	〃	第37回郡総合体育大会、本町で開催。（軟式野球、陸上男子優勝）
一九八五	〃	町老連創立20周年記念、町老人福祉大会開催。
一九八五	〃	金山沢地区に河川プールがオープン。
一九八五	〃	第14回国勢調査。（人口1万1547人、伸び率県下1位）
一九八五	〃	正部家奨氏が「階上町史」を発行する。
一九八五	〃	町制施行5周年記念式典開催。
一九八五	〃	第1回肉牛共進会開催。

西暦	年号	事柄
一九八六	昭和61年	町初のロープ塔が登切小学校スキー場に完成。
一九八六	〃	鳥屋部えんぶり保存館完成。
一九八六	〃	第1回はしかみいちご煮祭り開催。
一九八六	〃	道仏中新体操部東北大会6連勝達成。
一九八六	〃	観光列車「町民号」岩手県へ運行される。
一九八六	〃	登切小学校に緑の少年団を結成。
一九八六	〃	第1回健康づくり推進大会開催。
一九八六	〃	八戸圏域水道企業団設立、旧役場庁舎に階上事業所設置。
一九八六	〃	患者輸送バスを民間委託。
一九八七	62	赤保内駒踊保存館完成。
一九八七	〃	大蛇小学校校舎、体育館新築落成。
一九八七	〃	「はしかみの女（ひと）」レコードになる。
一九八七	〃	大蛇漁港に海産物簡易加工処理センター完成。
一九八七	〃	階上岳にアマチュア無線レピータ局が開局。
一九八七	〃	第1回町内駅伝競走大会開催。
一九八七	〃	第1回ファミリーマラソン大会開催。（平成8年まで）
一九八七	〃	田代小・中学校校舎移転新築。
一九八七	〃	第10回産業と文化の祭「臥牛祭」開催。
一九八七	〃	ほうれんそう雨除けハウス栽培行われる。
一九八七	〃	パーソナルコンピューターを役場に導入。
一九八八	63	道仏神楽保存館完成。
一九八八	〃	野沢スキー場完成。
一九八八	〃	防災行政用無線局開局。
一九八八	〃	蒼前地区コミュニティ公園完成。
一九八八	〃	大渡地区土地改良総合整備事業完成。（昭和59年着工）
一九八九	平成元年	町消防団が日本消防協会表彰（表彰旗）を受ける。
一九八九	〃	金山沢地区に「ふるさと河川公園」完成。
一九八九	〃	階上町国民健康保険事業施行30周年記念式典を開催。
一九八九	〃	一部スクールバスを廃止して、路線バス無料乗車券を交付。
一九九〇	2	「光のふるさと創造事業」により階上中学校にグラウンド照明施設、西部地区に農産物加工施設、東部地区に海産物加工施設を整備。
一九九〇	〃	階上誕生101年、町制施行10周年記念式典を挙行。
一九九〇	〃	記念植樹、タイムカプセル埋設、モニュメントの作製、はしかみ小唄制定、記念パレード、はしかみ101フェスティバルを実施。
一九九〇	〃	ヒラメ稚魚放流行われる。
一九九〇	〃	小舟渡小学校校舎・体育館完成。
一九九〇	〃	第15回国勢調査。（人口1万2959人、伸び率県下第1位）
一九九〇	〃	笹山秀雄氏第11回北京アジア大会レスリング競技フリースタイル52kg級銀メダル獲得。

西暦	年号	事柄
一九九〇	平成2年	第2次町総合振興計画を策定。
一九九一	3	春秋の清掃指導を廃止。町内一斉クリーンアップ作戦を始める。
一九九一	〃	合併処理浄化槽補助金交付事業始まる。
一九九一	〃	平内鶏舞・えんぶり組国立劇場で民俗芸能を上演。
一九九一	〃	第43回郡総合体育大会本町で開催。（陸上男女、バレーボール女子、野球、サッカー優勝）
一九九一	〃	がん検診（胃、大腸、肺、子宮、乳がん）無料となる。
一九九一	〃	突風により校舎、民家等被害を受ける。（9月28日、最大瞬間風速38・8m）
一九九一	〃	階上町ゲートボール協会設立。第1回町長旗争奪ゲートボール大会開催。
一九九一	〃	青森県葉たばこ共進会本町で開催。
一九九一	〃	町職員海外視察研修制度始まる。
一九九二	4	第1回新年互礼会が開催される。
一九九二	〃	児童数の増加により石鉢小学校新増改築完成。
一九九二	〃	八戸圏域水道企業団階上事業所が廃止され、八戸ブロックに統合。
一九九二	〃	町木「けやき」の造林始まる。
一九九二	〃	町民プールがオープン。（屋内50mは県内初）
一九九二	〃	第1回つつじマラソン大会開催。
一九九二	〃	農村環境改善センターを老人福祉センターに併設完成し「ハートフルプラザ・はしかみ」としてオープン。
一九九二	〃	第13回北奥羽選抜軟式野球選手権大会で階上クラブが優勝。
一九九二	〃	老人保健法による保健事業推進功労団体として町が厚生大臣表彰受賞。
一九九二	〃	役場完全週休2日制とする。
一九九二	〃	無火災365日を達成。
一九九三	5	文部省調査統計功労により町教育委員会が文部大臣賞を受賞。
一九九三	〃	不燃物最終処分場完成。
一九九三	〃	ふるさとにぎわい広場が建設省の「道の駅」に登録される。
一九九三	〃	金山沢小学校の新校舎・体育館が完成。
一九九三	〃	第62回全日本アマチュア自転車競技選手権ロードレース大会が開催される。
一九九三	〃	アクティブはしかみ13000フェスティバルを開催。
一九九三	〃	階上駅前商店街にスズラン灯（63基）を設置。
一九九三	〃	石鉢小学校が第13回全日本学童軟式野球大会県大会で優勝し全国大会に出場。
一九九三	〃	ハートフルプラザ・はしかみに中央公民館を移転し旧中央公民館を赤保内地区公民館と改称。

西暦	年号	事柄
一九九三	平成5年	記録的な冷害により甚大な被害。（水稲作況指数2農作物被害総額約4億3千万円）
一九九三	〃	田中和五郎氏（鳥屋部）青森県長寿者第1位となる（104歳）。
一九九三	〃	総合運動公園整備事業始まる。
一九九四	6	役場庁舎完全分煙を実施。
一九九四	〃	中学生海外派遣事業・小学生国内派遣事業始まる。
一九九四	〃	階上小学校新築校舎・体育館が完成。
一九九四	〃	郷土誌「はしかみ」50号発行される。
一九九四	〃	八戸警察署階上交番完成。
一九九四	〃	クリエイティブ・アブラメin町民フォーラムを開催し町の魚「アブラメ」を制定。
一九九四	〃	都市計画区域に指定される。
一九九四	〃	不燃ゴミ収集を「かご収集方式」とする。（県内初）
一九九四	〃	大蛇火防団が町消防団第6分団として発足。
一九九四	〃	町民海外研修制度始まる。
一九九四	〃	三陸はるか沖地震（12月28日マグニチュード7・5）及び余震（平成7年1月7日）襲来、被害甚大。（負傷者8人、住家半壊30軒、一部損壊450棟ほか）
一九九五	7	登切小学校の新校舎・体育館が完成。
一九九五	〃	町営住宅つくしケ丘団地が完成。
一九九五	〃	(財)はしかみ町産業振興会設立。
一九九五	〃	観光物産館・ふるさとにぎわい広場「道の駅・はしかみ」オープン。
一九九五	〃	第1次階上町行政改革大綱を策定。
一九九五	〃	十文字友和氏（追越）大相撲春場所三段目全勝優勝。
一九九五	〃	八戸東消防署階上分署完成。
一九九五	〃	追越地区にアスナ公園がオープン。
一九九五	〃	町民プールを温水化とする。
一九九五	〃	町制施行15周年記念式典を挙行。記念パレード、町の魚「アブラメ」放流、記念植樹、メモリアルフェスタを実施。
一九九五	〃	階上町戦没者追悼式が行われる。
一九九六	8	階上中学校の新校舎・体育館が完成。
一九九六	〃	金山沢コミュニティーセンターが完成。
一九九六	〃	笹山秀雄氏（駅前）アトランタオリンピックレスリング競技に出場。
一九九六	〃	階上中学校女子体操部・ゆかだんユニホッケーチームが全国大会に出場。
一九九六	〃	第1回階上町産業振興祭を開催。
一九九六	〃	石鉢火防団が第7分団（石鉢）として発足。
一九九六	〃	公衆衛生活動により、町保健協力員会が厚生大臣表彰を受賞。
一九九六	〃	「階上町史」資料編Ⅰを発行。

年表

西暦	年号	事柄
一九九七	平成9年	金山沢簡易水道完成。
一九九七	〃	階上みょうたん柿ワインを発売。
一九九七	〃	階上都市計画用途地域が決定。
一九九七	〃	第48回青森県植樹祭を登切小学校で開催。
一九九七	〃	階上クラブ（軟式野球）が東日本軟式野球大会に出場。
一九九七	〃	高雄市（台湾）の民族国民中学校が来町し、階上・道仏両中学校と交流を図る。
一九九七	〃	赤保内小学校の新校舎・体育館が完成。
一九九七	〃	大蛇小学校が大蛇駅周辺の清掃活動で運輸大臣賞を受賞。
一九九七	〃	十文字改め階ケ嶽が町初（明治以降）の関取となる。
一九九八	10	第9回全国ユニホック大会で階上町女子優勝。
一九九八	〃	地方自治法施行50周年記念シンポジウムinはしかみを開催。「郷土の偉人・太田広城」を語る。
一九九八	〃	鳥屋部地区住宅用地「トウィンクルタウン大鶴音」が完成し分譲を開始。
一九九八	〃	「フォレストピア階上」が登山口にオープン。
一九九八	〃	交通死亡事故ゼロ千日を達成（7月31日）。記念交通安全町民大会を開催。
一九九八	〃	西光寺ナニャドヤラ保存会が第48回全国民俗芸能大会に出演。
一九九八	〃	東北地区生涯学習まちづくり研究大会を階上町で開催。
一九九八	〃	階上町総合防災訓練を初めて実施。
一九九八	〃	滝端遺跡で縄文後期の頭部「はめ込み式」土偶が発掘される。
一九九九	11	役場業務をコンピュータ化。総合行政システムが稼働。
一九九九	〃	町の元気のために地域振興券交付事業が開始される。
一九九九	〃	住民登録人口1万5000人を突破。（12月3日）
一九九九	〃	階上都市計画道路が決定。
一九九九	〃	町民プールが入場者1万人を突破。
一九九九	〃	大蛇地区の漁業集落排水処理施設が完成。
二〇〇〇	12	町の観光のシンボルとして「臥牛の塔」を設置。
二〇〇〇	〃	第2次階上町行政改革大綱を策定。
二〇〇〇	〃	第3次階上町総合振興計画を策定。
二〇〇〇	〃	道仏小学校校舎が完成。（町内小学校のすべてが近代化となる）
二〇〇〇	〃	十文字関が幕内に昇進する。
二〇〇〇	〃	石鉢小学校グラウンドに災害対策緊急給水施設が完成。
二〇〇〇	〃	階上町文化協会設立。
二〇〇〇	〃	町制施行20周年式典を挙行。（シンボルキャラクターの制定・盆踊り大会・記念写真集の発刊・子ども議会等）
二〇〇〇	〃	「階上町史」資料編Ⅱ・通史編Ⅰを発行。

西暦	年号	事柄
二〇〇〇	平成12年	市町村合併協議会の設置を請求する県内初の住民発議がされる。（12月5日）
二〇〇一	〃	大蛇小学校が学校給食文部大臣表彰を受賞。
二〇〇一	13	蒼前地区の住所変更（町名整理事業）が行われる。
二〇〇一	〃	八戸市・階上町・福地村・南郷村合併検討協議会（任意）が発足する。
二〇〇一	〃	「階上町史」通史編Ⅱを発行。
二〇〇一	〃	道仏婦人会の花壇整備活動が認められ国土交通大臣表彰を受賞。
二〇〇一	〃	耳ケ吠東コミュニティセンター（愛称ふれあい館）が完成。
二〇〇一	14	はしかみUHC（ユニバーサルホッケーチーム）が全国大会低学年混成の部で優勝。
二〇〇二	〃	学校週5日制を完全実施。
二〇〇二	15	市町村合併住民説明会を町内9会場で実施。
二〇〇三	〃	階上町が八戸市、福地村、南郷村、名川町、南部町、田子町と合併することの賛否を問う住民投票が実施される。（2月9日執行）
二〇〇三	〃	八戸地域合併協議会（法定）が発足。
二〇〇三	〃	石鉢地区に石鉢ふれあい交流館が完成。
二〇〇三	〃	鳥屋部地区に森の交流館が完成。
二〇〇三	〃	冷害により被害を受ける。（作況指数14、農作物被害総額約1億3200万円）
二〇〇四	16	はしかみUHCが全国大会小学生高学年の部で優勝。
二〇〇四	〃	「階上町が八戸市、福地村、南郷村、名川町、南部町、田子町及び新郷村と合併することの同意を求めることについて」の議案が賛成少数により否決され、八戸地域合併協議会から離脱。
二〇〇四	〃	八戸地域合併協議会が廃止される。
二〇〇四	〃	寺下遺跡から鹿角製腰飾りが発掘される。
二〇〇四	〃	しるし平～石倉線の登山車道が開通、階上岳の道路整備が完了する。
二〇〇四	17	JR階上駅の開業80周年を祝う記念行事が開催される。
二〇〇五	〃	第3次階上町行政改革大綱を策定。
二〇〇五	〃	階上岳つつじの森キャンプ場が完成。
二〇〇五	〃	第1回階上町歴史講座が開催される。
二〇〇五	〃	列車運行システムの近代化に伴い、JR階上駅の腕木式信号機が80年の役割を終えて撤去される。
二〇〇五	〃	青色回転灯を搭載の防犯パトロール車の出発式が行われる。（県内2例目）
二〇〇五	〃	大蛇地区漁業集落環境整備事業（集落道3路線、漁業集落排水処理施設、雨水排水路2カ所、緑地広場2カ所）が完成。
二〇〇五	〃	奇峰学秀作の木彫仏像が鳥屋部地区で発見される。

西暦	年号	事柄
二〇〇五	平成17年	階上町連合婦人会が創立50周年を迎える。
二〇〇五	〃	第1回階上岳横断ウォークが行われる。
二〇〇五	〃	協働のまちづくり町民会議が発足。
二〇〇六	18	日韓スポーツ大会（韓国・麗水市）で大前典男氏（平内）と谷川保博氏（金山沢）が金メダルを獲得。
二〇〇六	〃	第21回いちご煮祭りで「元祖いちご煮」が限定販売される。
二〇〇六	〃	地域アニメーター養成のための「ふるさとかたり塾」を開講。
二〇〇六	〃	十文字関が大相撲九州場所で初の十両優勝。
二〇〇六	〃	階上そば振興委員会「階上そばりえ」を設立。
二〇〇六	〃	階上ブランドの確立を図るため、階上の味普及推進協議会を設立。
二〇〇七	19	榊漁港漁場機能高度化事業が完成。
二〇〇七	〃	「階上町協働のまちづくり条例」を制定。町内6か所で協働のまちづくり住民懇談会を実施。
二〇〇七	〃	八戸南道路の八戸南インターチェンジ～種差海岸階上岳インターチェンジ間3・4㎞が開通。
二〇〇七	〃	階上（種市）岳に完成した八戸局が地上デジタル放送を開始。（8月1日）
二〇〇七	〃	イベント列車「風っこシーガル号」が階上駅～八戸駅間で運行。
二〇〇七	〃	田代地区振興計画実行委員会が、平成19年度豊かなむらづくり全国表彰事業で東北農政局長賞を受賞。
二〇〇七	〃	第1回階上早生新そば祭りを開催。
二〇〇七	〃	JR階上駅前に腕木式信号機を復元設置。
二〇〇八	20	新成人が組織する成人式実行委員会企画運営の成人式が行われる。
二〇〇八	〃	有形文化財9点、無形民俗文化財2点、天然記念物1点を町文化財指定する。
二〇〇八	〃	町連合婦人会が町民歌「光のふるさと」に健康体操の振り付けをする。
二〇〇八	〃	原油高騰対策として福祉灯油券を発行。
二〇〇八	〃	協働のまちづくりアクションプランが完成。
二〇〇八	〃	全19行政区で作成した「地区まちづくり計画」が完成。
二〇〇八	〃	階上駅前に「階上駅信号小屋」を復元。
二〇〇八	〃	階上ブランド確立のため「階上早生」階上そばの商標登録する。
二〇〇八	〃	石鉢ふれあい交流館に町民サービスコーナーが設置される。
二〇〇八	〃	町営住宅榊山団地の移転新築工事完成。
二〇〇九	21	八戸圏域水道企業団管轄区域において断水事故が起きる。（1月1日）

西暦	年号	事柄
二〇〇九	平成21年	石鉢女性消防クラブが青森県知事表彰を受賞。
二〇〇九	〃	階上中学校の耐震化工事が完了。町内全小・中学校の耐震化完了。
二〇〇九	〃	町民の交通手段としてコミュニティバスを本格運行。
二〇〇九	〃	茨島浄化センターの公共下水道の供用開始。
二〇〇九	〃	日米まちづくりフォーラムinはしかみが開催される。
二〇〇九	〃	広報はしかみ６００号が発行される。（第1号は昭和30年９月15日）
二〇〇九	〃	八戸市との定住自立圏形成協定を締結。
二〇〇九	〃	臥牛の郷生活研究連絡協議会がふるさとの伝統料理集「階上町の伝統料理」を発刊。
二〇一〇	22	町初の女性副町長（久保和子氏）が選任。
二〇一〇	〃	第４次階上町行財政改革大綱を策定。
二〇一〇	〃	南米チリ中部で発生した巨大地震で、青森県から宮城県にかけて大津波警報が発令。
二〇一〇	〃	第４次階上町総合振興計画を策定。
二〇一〇	〃	階上町名誉町民条例を制定。第１号に上野正藏氏。
二〇一〇	〃	はしかみ総合スポーツクラブ設立。
二〇一〇	〃	登切小学校閉校。（１３５年の歴史に幕）
二〇一〇	〃	町立学校給食センターを新築、オープン。（ＨＡＣＣＰ〈ハサップ〉概念を導入したオール電化、ドライ方式）
二〇一〇	〃	町制施行30周年記念式典を開催。
二〇一〇	〃	交通死亡事故ゼロ千日を達成。（5月28日）
二〇一〇	〃	旧中央保育所跡地にあおぞらテニスコートオープン。
二〇一〇	〃	三八支部消防操法大会で第５分団（登切）がポンプ自動車の部で優勝。第26回青森県消防操法大会に出場し準優勝。
二〇一〇	〃	交通死亡事故ゼロ３年を達成。（8月31日）
二〇一〇	〃	ふるさとはしかみ会設立。
二〇一〇	〃	道の駅はしかみに太陽光発電システムを設置。
二〇一〇	〃	大蛇・小舟渡地区に町内初の少年消防クラブ結成。
二〇一〇	23	町消防団が消防庁長官表彰旗を受賞。
二〇一一	〃	東日本大震災発生。東北地方太平洋沖地震による大津波襲来。（3月11日マグニチュード9.0、階上町震度５強）人的被害なし、住家、店舗、浜小屋等全半壊92軒、漁船流失・損壊１２４隻他被害甚大。被害額13億３６００万円。
二〇一一	〃	金山沢小学校閉校。（86年の歴史に幕）
二〇一一	〃	元幕内十文字が引退。
二〇一一	〃	防災無線をデジタル化・全国瞬時警報システム（Ｊ―ＡＬＥＲＴ）を整備。

西暦	年号	事柄
二〇一一	平成23年	東日本大震災からの復興を祈願し、「がんばろう！はしかみ復興市in大蛇」を開催。
二〇一一	〃	台風15号による大雨で河川・道路に被害。
二〇一一	〃	自主防災組織が全行政区で組織化。町内世帯カバー率１００％となる。
二〇一二	24	階上町震災復興計画を策定。
二〇一二	〃	戸籍管理をシステム化。
二〇一二	〃	町消防団第１分団屯所を移転新築。
二〇一二	〃	旧登切小学校を改修し「わっせ交流センター」オープン。
二〇一二	〃	三八地区消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ自動車の部、小型動力ポンプの部の両部門でダブル優勝。第27回青森県消防操法大会に両部門出場し、小型ポンプの部で準優勝。
二〇一二	〃	階上町赤十字奉仕団が結成50周年を迎える。
二〇一二	25	階上１Ｃが完成し、復興道路として八戸南道路が全線開通。
二〇一三	〃	階上町津波避難計画を策定。
二〇一三	〃	八戸学院大学と連携協力協定締結。
二〇一三	〃	大蛇三地区集会所が完成。
二〇一三	〃	道仏公民館耐震補強・改修工事が完了。
二〇一三	〃	沿岸監視カメラ設置、映像公開開始。
二〇一三	〃	原因不明の連続林野火災発生。（29件、9・16ha焼失）
二〇一三	〃	階上岳・階上海岸ごみ一掃大作戦が行われる。
二〇一三	〃	階上岳・階上海岸が三陸復興国立公園に指定される。光ブロードバンドサービス町内カバー率１００％となる。
二〇一三	〃	第１回素人そば打ち段位認定階上大会が開催される。
二〇一四	26	みちのく潮風トレイル北部ルートが開通。
二〇一四	〃	階上駅新駅舎が完成。
二〇一四	〃	記録的な大雪により農作物等が被害を受ける。
二〇一四	〃	階上町庁舎耐震補強・改修工事が完了。
二〇一四	〃	フォレストピア階上リニューアルオープン。
二〇一四	〃	三八地区消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ自動車の部、小型動力ポンプの部の両部門でダブル優勝。第28回青森県消防操法大会に両部門出場し、両部門でダブル優勝。
二〇一四	〃	階上町自主防災組織連絡協議会を設立。
二〇一四	〃	第24回全国消防操法大会小型ポンプの部に第１分団（小舟渡）が出場、11位の敢闘賞。佐京喜一２番員が優秀選手賞を受賞。
二〇一五	27	階上早生そば焼酎「早生のめぐみ」発売。
二〇一五	〃	八戸学院大学、八戸学院短期大学と連携協力協定締結。

西暦	年号	事柄
二〇一五	平成27年	小舟渡少年消防クラブが消防長官表彰を受賞。
二〇一五	〃	小舟渡女性消防クラブが青森県知事表彰を受賞。
二〇一五	〃	町消防団第４分団屯所移転新築、ポンプ自動車更新。
二〇一五	〃	旧金山沢小学校を改修し「金山沢水郷館」が完成。
二〇一五	〃	階上町庁舎１階フロア改修工事完了、ワンフロアサービスが可能に。
二〇一五	〃	階上町民文化祭において「階上の偉人展―太田広城の足跡を辿る―」を開催。
二〇一五	〃	大蛇さざ波歩道橋が完成。
二〇一五	〃	道仏少年消防クラブ結成。
二〇一六	28	第５次階上町行財政改革大綱を策定。
二〇一六	〃	階上町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定。
二〇一六	〃	東日本大震災を風化させないためｎｅｖｅｒ ｆｏｒｇｅｔ３・11津波防災行事を開催。
二〇一六	〃	大蛇少年消防クラブが消防長官表彰を受賞。
二〇一六	〃	三八地区消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ自動車の部で優勝。第29回青森県消防操法大会に出場し、準優勝。
二〇一六	〃	道仏交流センターが完成。
二〇一六	29	健康宣言を実施し、庁舎内禁煙となる。
二〇一七	〃	有形文化財３点、天然記念物１点を町文化財指定する。
二〇一七	〃	田代小中学校閉校。（95年の歴史に幕）
二〇一七	〃	第86回全日本自転車競技選手権大会ロード・レースが開催される。
二〇一七	〃	まちづくりコーディネーター養成講座「はしかみベース」開講。（全７回）
二〇一七	〃	交通死亡事故ゼロ千日を達成。（10月24日）
二〇一七	〃	田代集会所が移転新築される。
二〇一八	30	階上早生誕百周年を迎える。
二〇一八	〃	第２次協働のまちづくり地区計画が完成。
二〇一八	〃	太田広城生誕１８０年記念事業を開催。（生家跡説明板設置等）
二〇一八	〃	海業支援施設「はしかみハマの駅あるでぃ～ば」オープン。
二〇一八	〃	道仏中学校消防クラブ結成。
二〇一八	〃	青森県立八戸水産高等学校と連携協定締結。
二〇一八	〃	三八地区消防操法大会で第１分団（小舟渡）がポンプ自動車の部で優勝。第30回青森県消防操法大会に出場し、優勝。
二〇一八	〃	八戸工業大学と連携協定締結。
二〇一八	〃	交通死亡事故ゼロ最長記録１３４３日を達成。（10月2日）

階上町民憲章

わたくしたちは、やま（臥牛山）と、うみ（太平洋）の美しい自然にはぐくまれた豊かな伝統をもつ階上町民です。

わたくしたちは、愛する郷土の発展としあわせをねがいこの憲章を定めます。

一、心のふれあいを大切にし文化の高いまちにしましょう。
一、より豊かな生活を求め活力のあるまちにしましょう。
一、心とからだをきたえ健康なまちにしましょう。
一、恵まれた自然を愛護し美しいまちにしましょう。
一、みんなできまりを守り住みよいまちにしましょう。

［昭和55年５月１日制定］

町章

階上町の（上）の字を図案化し、その上に（階）の字を載せ、常に上向きの生活を希い、円形は、平和と協力を表徴したものである。(町民から募集した入選作)

［昭和39年８月１日制定］

町の花･木･鳥･魚

※花・木・鳥［昭和55年５月１日制定］
※魚［平成６年３月22日制定］

町の花／つつじ

厳しい風雪に耐え新緑の山野に美しく咲く「つつじ」は、町民のたくましさと心のやさしさを表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

町の木／けやき

どっしりと大地に根を張り大空高く繁る「けやき」の姿は、町の伝統のゆかしさと未来への発展を表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

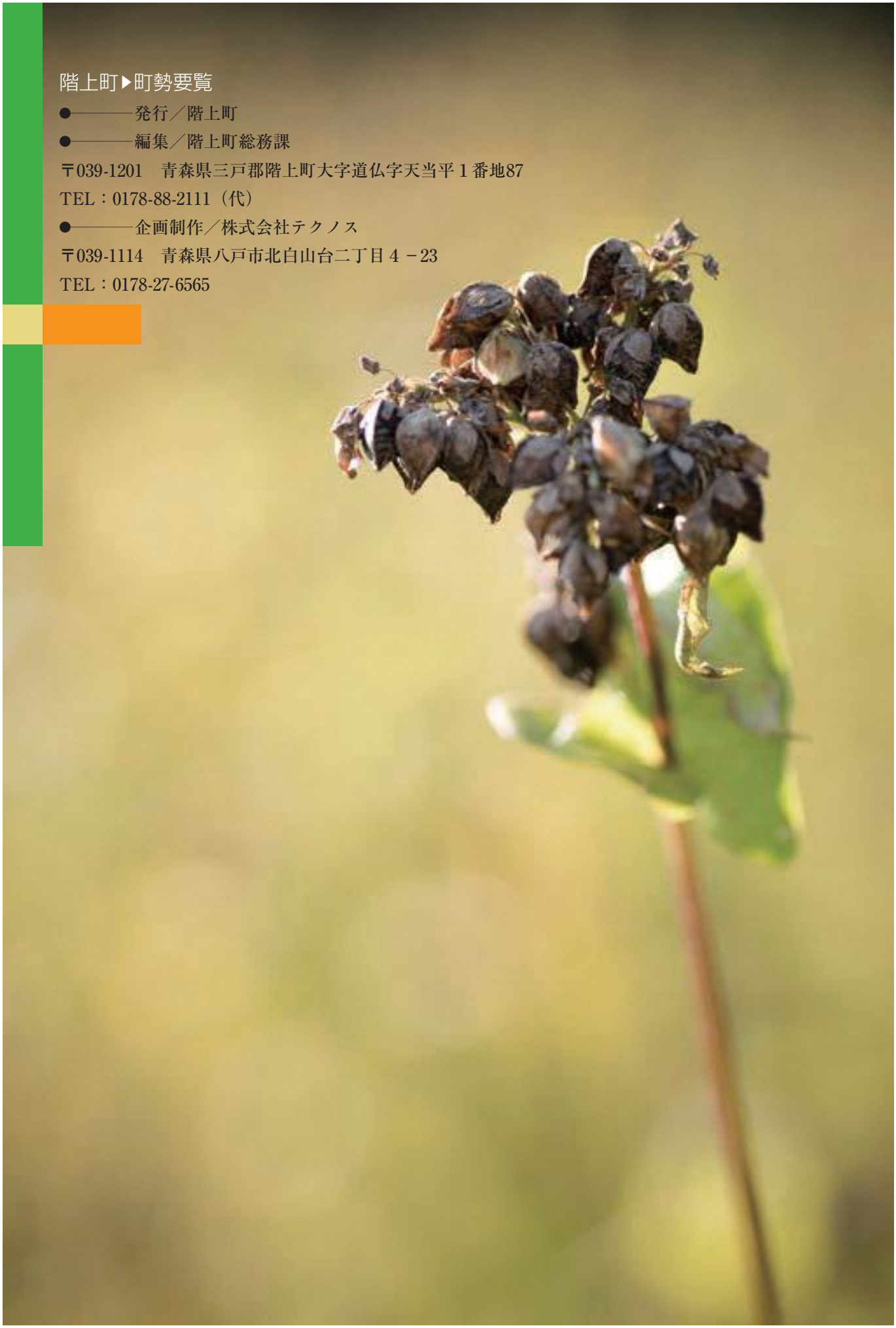
町の鳥／ウグイス

数多く生息する鳥類の中でも高尚でさわやかな「うぐいす」の鳴き声は、町民の心をなごませ町の自然の良さを表しています。町制施行の記念事業として町民の皆さまから公募し入選したものです。

町の魚／アブラメ

本町沖で獲れる魚介類の消費拡大や観光漁業を含め、より一層の漁業振興を図るために制定されました。平成5年10月に町内全世帯を対象に実施したアンケート結果と年間を通じて漁業者や遊漁船等で多く漁獲されていることから町の魚に選ばれました。

シンボルキャラクター

［平成12年12月１日制定］

階上町▶町勢要覧
●――――発行／階上町
●――――編集／階上町総務課
〒039-1201　青森県三戸郡階上町大字道仏字天当平１番地87
TEL：0178-88-2111（代）
●――――企画制作／株式会社テクノス
〒039-1114　青森県八戸市北白山台二丁目４－23
TEL：0178-27-6565